

第5回 日本医療安全学会学術総会

多職種による地域に根差した医療安全文化の醸成

(最終版 追加プログラム入り)

会期

2019年2月9日(土)・10日(日)

会場

東京大学本郷キャンパス (東京都文京区本郷 7-3-1)

共同総会長

松村 由美

(京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授)

岡田 有策

(慶應義塾大学理工学部管理工学科 教授)

衣川 さえ子

(東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 教授)

(対象者) 病院経営者、病院長、医療行政担当者、総括医療安全管理者、医科医療安全管理者、歯科医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、病理医、臨床医、薬剤師、保健師、看護師、訪問看護師などの在宅医療関係者、ケアマネージャー、介護福祉士、臨床工学士、診療放射線技師、検査技師、院内法務担当者、弁護士、研修医、学生、医療産業従事者、その他

(※) 2018年より厚生労働省では特定機能病院以外の保険医療機関対象として医療安全対策地域連携加算を新設しました。詳細は以下を参照してください。

<http://www.jpscs.org/MSCHIKI2018/fee.pdf>

本総会の内容は、医療安全対策地域連携活動を実施する際に必要となる基本的な知識、ならびに、院内での医療安全対策地域連携研修会開催のための基本資料も含まれています。



(受付開始時間)

2月9日(土) 午前8時

2月10日(日) 午前8時

(電子版抄録集のホームページアドレスの通知)

当日申込者へは電子版抄録のホームページをお教えします。
なお、印字版抄録を当日に購入可能です。

事前登録をされ、かつ参加費振り込み済みの方： 事前に電子メールにてお知らせします。

事前登録をされて参加費当日支払いの方： 当日受付でお知らせします。

SIM付の携帯端末(スマートフォン、Iphone など)をご持参ください。
携帯端末の貸し出しは致しません

(印字版抄録集の配布)

購読希望者へ当日受付にてお渡しします。

(参加証、領収書)

当日受付にてお渡しします。

2月9日は降雪のために懇親会日程を2月10日午後5時30分へ変更します。丸ノ内線が影響される場合は南北線、千代田線のご利用ください。

参加者へのご案内

1. 事前参加申し込みの締め切り： 2018年12月28日

2. 事前参加登録者の参加費振込：

支払い締め切り 2019年1月15日までに振り込み控えをFAXください。

(振込先口座)

銀行支店名：みずほ銀行 本郷支店 支店番号： 075 口座番号： 普通 4092033
口座名義： JPSCS 総会

3. 参加費 クレジットカードはご利用いただけません。

| | 日本医療安全学会の会員 | 学部生 / 研修医 | その他 |
|-----------------|-------------|-----------|--------|
| 参加費（事前申込あり、非課税） | 9,000 | 4,000 | 12,000 |
| 参加費（事前申込なし、非課税） | 11,000 | 6,000 | 14,000 |
| 印刷抄録集 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| 懇親会参加費（税込） | 5,000 | 5,000 | 5,000 |

- ・ お支払いされた方には、参加証兼領収書をお渡しいたします。会期中は必ず着用してください。
- ・ 大学院生は一般扱いです。学生の方は、受付で学生証を提示してください。
- ・ 研修医の方は、上司からの証明があれば学生と同額です（証明書様式はHPにあります）。

4. 新入会受付・年会費納入について

- ・ 受付にて承っております。

5. 受付

- ・ 法文1号館1階ロビー

6. クローク

- ・ 法文1号館1階ロビー

7. 懇親会

日 時： 2019年 ~~2月9日(土)午後6時30分～8時30分~~ **10日(日)午後5時30分～7時30分**

参加費： 5,000円（税込）

会 場： ホテル フォレスト本郷 1階

<https://www.forest-hongo.com/access/>

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-16-4

TEL03-3813-4408

東大正門前から徒歩数分。

東大正門前の井上書店を右折、

130m 直進し右手が会場ホテルです。



第5回日本医療安全学会学術総会

会期： 2019年2月9日(土)・10日(日)
場所： 東京大学本郷キャンパス (東京都文京区本郷7-3-1) Tel 03-3812-2111
共同総会長： 松村 由美 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授)
岡田 有策 (慶應義塾大学理工学部管理工学科 教授)
衣川 さえ子 (東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 教授)
副総会長： 生島 五郎 (松戸市立総合医療センター 薬局長)

プログラム委員会：

(医療安全分野)

秋野 裕信、磯谷 一宏、井手 隆文、上嶋 健治、遠藤 純男、大城 孟、小田 克彦、大徳 和之、大野 和子、大渡 凡人、海渡 健、金淵 一雄、亀山 周二、川崎 志保理、楠本 茂雅、小林 弘幸、小林 肇、酒井 亮二、酒巻 裕之、佐久間 泰司、佐藤 慶太、佐藤 耕一郎、佐和 貞治、鈴木 章司、竹迫 直樹、辰巳 陽一、種井 隆文、手塚 則明、寺田 員人、鳥谷部 真一、長島 久、長村 文孝、中山 晴雄、永山 正雄、野村 史郎、長谷川 奉延、橋本 晋一、近本 亮、平元 周、廣井 透雄、福田 八寿絵、福成 信博、星 真哉、松岡 浩司、松村 由美、三井 良之、水本 一弘、三森 教雄、宮崎 浩彰、宮本 智行、安田 あゆ子、山下 美佳、山本 直人、梁 善光、渡邊 秀臣

(臨床医学安全分野)

池田 洋、石丸 新、稲田 英一、大澤 資樹、太田 美智男、尾崎 喜一、河田 健司、黒田 誠、粉川 敦史、坂井 信幸、佐々木 毅、高井 雄二郎、田中 伸哉、千田 雅之、辻本 広紀、富永 英一郎、平田 修司、深山 正久、福田 幾夫、福島 光浩、星山 栄成、藤原 祥裕、森田 明夫

(看護安全分野)

石原 由華、井上 都之、岩澤 とみ子、岩本 郁子、梅津 靖江、大澤 智美、金子 恵美子、兼光 洋子、廣幸 英子、木下 美佐子、小林 美雪、小山 智史、鈴木 佳世子、衣川 さえ子、新村 美佐香、竹中 泉、土屋 和子、土屋 八千代、西隈 菜穂子、藤井 千枝子、布施 淳子、堀田 まゆみ、三上 久美子、丸山 節子、横尾 睦、渡辺 八重子

(医薬品安全分野)

足立 美千子、生島 五郎、井手口 直子、伊藤 裕康、奥貞 智、金田 昌之、河瀬 留美、佐藤 光利、坂口 眞弓、末吉 宏成、菅野 浩、清野 敏一、田中 守、夏目 義明、橋田 亨、本多 秀俊、百 賢二、鷲山 厚司

(医療機器安全)

青木 郁香、石井 宣大、許 俊鋭、鈴木 聡、田仲 浩平、真下 泰、増田 豊

(その他の関連分野)

出江 紳一、井上 清成、大滝 恭弘、岡田 有策、勝村 久司、加藤 直樹、北野 達也、木下 正一郎、小松原 明哲、瀧本 禎之、野坂 佳生、旗手 俊彦、藤本 隆宏、目黒 公朗

組織委員会： 正副会長、全理事、全代議員、その他

主催

一般社団法人 日本医療安全学会

後援

厚生労働省、文部科学省、(独)医薬品医療機器総合機構、(独)地域医療機能推進機構、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本看護協会、全日本病院協会、日本病院薬剤師会、日本医療機器産業連合会、日本医療機器テクノロジー協会、日本病理学会、日本麻酔科学会、日本呼吸器外科学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、日本小児科医会、日本神経学会、日本リハビリテーション医学会、日本緩和医療学会、日本臨床工学技士会、日本診療放射線技師会、日本歯科衛生士会、日本臨床心理学会、日本産業看護学会、日本衛生学会、他

連絡先

日本医療安全学会本部
〒113-0033 東京都文京区本郷4-7-12-102
TEL/FAX: 03-3817-6770 Email: 5amt@jpscscs.org

ごあいさつ



共同総会長

京都大学医学部附属病院医療安全管理部 教授

松村 由美

この度、第5回日本医療安全学会学術総会にて共同総会長の一人として、会の運営を担当することになりました。第5回のテーマは「地域に根差した医療安全文化の醸成」です。本学会は、“鳥の眼”で社会を俯瞰しながら、年度毎のテーマが設定されてきた経緯がございます。過去のテーマをご紹介します。

第1回 チーム医療における統合と分化—院内多職種による臨床安全の向上をめざして—

第2回 医療安全文化と医療安全ガバナンスの向上一医療事故死亡ゼロ社会を目指して。質向上とリスク科学の立場から—

第3回 完璧に安全な世界を目指して—医療安全を質と量から向上する。多職種・学際による連携の構築—

第4回 医療安全ネットワークの進化—医療安全第2世代を迎えて—

医療安全は、個別インシデントやエラー・事故への対応に終始しないように、全体を大きな目で見て進むべき方向をしっかりと見据えながら、一步一步、確実に前進することが重要だと思っています。第1回から4回のテーマ全体に通じるのが、「連携や組織のあり方」です。第5回では、「地域」での連携をとりあげました。医療安全の負の面のひとつにローカルルールや個別性の高い特殊なルールを作りすぎているということがあります。原則や意味を理解しないまま、ルールに振り回されることが見受けられます。

患者さんは、地域の複数の医療機関で医療の提供を受けています。地域包括ケアシステムが、今後の医療提供プロセスの鍵になっていくことは間違いなく、この傾向は加速します。医療安全については、どの医療機関であっても、大病院であれ、個人の診療所であれ、基本となる考えに変わりはありません。地域全体で患者さんに安全で質の高い医療を提供するためには、医療機関の横のつながりが重要です。ある医療機関の医療サービス提供は、退院や転院によって途切れるのではなく、次の医療機関にしっかりとバトンタッチしなければなりません。

つながりの中心にいるのは、「患者さん」です。医療機関ごとに医療の質やリスクへの取り組みが大きく異なっているのは、安心して、地域で医療を受けることができません。慢性期や急性期によって、医療サービスを受ける場（＝医療機関）は異なります。どこにいても、同じように安心できる医療を提供するためには、私たち医療者が、医療安全に関してオリジナリティーを求めるのではなく、普遍性や汎用性を目指す必要があります。高度医療機関で複雑な医療計画を立てると、退院後の在宅医療での安全が脅かされることを認識する必要があります。より良い医療を目指すために、よりシンプルな医療を心掛ける必要性が生じています。

平成30年度の診療報酬改定において、「医療安全対策地域連携加算」が新設されることになりました。医師が積極的に医療安全にかかわり、他の医療機関と連携して医療安全対策に関する評価を行うことが求められています。「地域に根差した医療安全文化の醸成」をキーワードに、地域の医療機関が連携し、PDCA サイクルを回し続けるという活動が定着することを願っています。第5回学術総会が、その活動を支援できれば幸いです。



共同総会長

慶應義塾大学理工学部管理工学科 教授
岡田 有策

このたび第5回日本医療安全学会学術総会の共同総会長をさせていただくことになりました。わたしの専門はヒューマンファクターズですが、最近は安全管理、組織管理、さらにはブランド・マネジメントといったように組織の成長戦略と同期させたヒューマンファクターズのあり方を研究しています。

これまでは「ヒューマンファクター的な考えを取り入れなければ事故が再発する」、「ヒューマンファクターを考慮していないからこんな事故が生じた」といったように、事故分析、事故防止の必須アイテムのように語られることが多かったです。しかしながら、ヒューマンファクターは単に個別のエラーの防止策を考えるためだけのものではなく、組織のデザイン自体を改革することにもつながる学問です。ヒューマンファクター研究の研究成果を、現場作業に直接役立てるだけでなく、企業の組織デザインにも踏み込む研究も推進させ、ヒューマンファクター／人間工学の実験的研究成果を生かせる場を多くプロデュースしていくことも、ヒューマンファクター研究にとって重要なテーマであるとわたしは考えています。ヒューマンファクターを積極的に組織の活動（安全活動だけでなく、様々な業務活動、さらにはお客様へのサービス活動など）に適用することにより、その組織が創出する様々なアウトプットの質が向上し、社会から多様な評価を得られることにつながるでしょう。さらには、ヒューマンファクターズを的確に実践することでは、CSR（Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任）活動、Reputation Management、Brand Management といった企業価値を高めることに貢献することに繋がると思っています。

今回のテーマである「地域に根差した医療安全文化の醸成」も地域のレピュテーションの向上との連動が鍵になると思います。地域住民の安心、地域の様々な価値向上につながる議論が本大会で展開されることを期待いたします。



共同総会長

東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 教授
衣川 さえ子

このたび、第5回日本医療安全学会学術総会の共同総会長を松村由美先生、岡田有策先生と共に、担当させていただくことになりました。ひとこと、ご挨拶申し上げます。

世界保健機構（WHO）により、『患者安全カリキュラムガイド；多職種版 Patient Safety Curriculum Guide: Multi-professional Edition 2011』が提示されて以降、医療系教育機関での患者安全教育が強化されています。

私は、2000年から看護基礎教育における看護安全を追究してまいりました。当時の調査では、9割の看護教育機関で「誤薬」「転倒・転落」の要因が講義されていたものの、看護技術を正確に用いればミスは防げるとの考えから技術修得が強化されていました。ミスを「個人責任」とする文化から「原因志向」へと転換できるように、カリキュラムや教育方法の開発、看護教員の研修に取り組んできました。2008年の看護基礎教育課程改正により、「医療安全」が教育内容に位置づけられ「原因志向」の文化へと転換されてきました。しかし、WHOの提唱する、エラーに学び・害を予防する文化の醸成は、未だ充分とは言い難い状況です。

現在、人々が住み慣れた地域で必要な医療・介護などのサービスを一体的に受けられるようにするために、地域包括システムの推進が図られています。入院から在宅への切れ目のない支援を行うために、病棟看護師と退院調整看護師、訪問看護師と包括支援センターなどの連携が看護職に求められています。加えて、増加する医療的ケア児や障がい児の在宅ケア、在宅難病患者への訪問看護サービスの充実なども課題です。いかなる場でも看護安全は、業務遂行における最優先課題です。変化する現場の状況に応じて自身のパフォーマンスを調整した実践が求められます。日常的なパフォーマンス変動の予期せぬ組み合わせで、インシデントやアクシデントが発生します。地域で療養生活をおくる方々の安全を保障する上で、刻々と変化する状況に柔軟に対応し、自らのパフォーマンスを調整する力の向上が要となります。この調整力は、新たに知り得た研究成果から日頃の実践を吟味する、あるいは研究知見の妥当性を実践内容から問うという「学習」によっても磨かれます。

病院施設を含めた「地域」で思考し行動している人々が繋がり合い、本学術総会が刺激しあう討論の場として機能することが、「地域に根差した医療安全文化の醸成」の一翼になると考えます。多様な場で活躍していらっしゃる学会員の皆様が “医療安全” の創造にいかに関与するか、その可能性や工夫点等について、お互いに討論を深めましょう。

学会の趣旨

本学会は、医療現場が日常抱えている安全問題を解決することを目的とし、特定の固定観念にとらわれず、幅広く様々に複雑な状況へ柔軟に対応し、実践的・現場に即した安全文化の構築を目指します。

この目的を達成するために、それぞれの安全管理責任者が本学会の理事・代議員として医療における各種安全分野を編成し、多職種横断的ならびに学際的研究の2つの視点から活動を展開しています。

以上から、本学会のキーワードは現場的、実践的、柔軟性、多職種横断および学際研究です。このような独特な特徴を持つ本学会は、皆様が現場で抱えている安全問題の共通部分について多職種によって問題意識と解決策を共有・共感し、同時に各専門分野での安全向上に努め、日々に高度に発達していく巨大かつ複雑な医療現場での安全文化を構築します。

(対象者)

医療従事者、統括医療安全管理者、専従医療安全管理者、専任医療安全管理者、医療リスクマネージャー、医療クライシスマネージャー、歯科医療安全管理者、医療機器安全管理者、医薬品安全管理者、その他の医療福祉関係者全般、安全科学・工学関係者、リスク科学関係者、危機科学関係者、法行政関係者、情報関係者、その他医療職の方、医療系の学生

次年度 第6回日本医療安全学会学術総会のお知らせ

会期: 2020年2月から3月の土日2日間

会場: 東京大学本郷キャンパスの予定

共同総会長:

稲田 英一 (日本麻酔科学会理事長、順天堂大学教授・副院長)

秋野 裕信 (福井大学病院医療安全部長、教授)

新村 美佐香 (菊名記念病院医療安全管理室室長、YMG医療安全推進部部長)

理事会・代議員大会のお知らせ

1. 定例理事会

- ・ 2019年2月9日(土) 12:00~12:45
山上会館2階小会議室

2. 定例代議員大会 (理事の方もご参加ください)

- ・ 2019年2月10日(日) 12:15~12:45
- ・ 法文2号館1階 22番講堂

日程表 2019年2月9日(土)

| 会場 | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 | 第4会場 | 第5会場 |
|-------|---|--|--|--|--|
| 部屋名 | 法文1号館2階 25番講堂 | 法文2号館2階 31番講堂 | 法文1号館1階 21番講堂 | 法文1号館1階 22番講堂 | 法文1号館3階 26番講堂 |
| 9:00 | | | | | |
| | 開会式 | | | | |
| | (PNO1) パネル IMSグループに於ける 安全な医療と介護の体制づくり 【岡田有策】 | (SL02) 特別講演 許 俊鋭 医療事故時の広報のポイント | | (SL10) 特別講演 藤澤大介・長谷川幸延 慶応義塾大学における 画像・検査未読対策の現状と課題 | (PN10) パネル 医療情報システムで実現する医療 安全 ～読影レポートの読み落とし事例 から考える～ 【海渡 健】 |
| 10:00 | | (SL03) 特別講演 井手口直子 患者・家族との対話に向けた医療 者に必要なコミュニケーション 【松村由美】 | | (SL11) 特別講演 小林弘幸 院内医療事故調査の進め方 | |
| | (SL01) 特別講演 岡田有策 人間工学的基礎知識を医療安全活 動に展開するための一工夫 | | (PN04) パネル 転倒・転落を多職種で防止する 【秋野裕信】 | | |
| 11:00 | | (PL01) 会長講演 松村由美 なぜ私たちはダブルチェックをするのか? ～そのダブルチェック本当に必要ですか? | | | (SL12) 特別講演 海渡 健 画像診断報告書の未確認・非共有 事例の発生/パターンと対策 |
| | (PNO2) パネル 東京メトロ、東武 鉄道事業者の安全管理活動の紹介 【岡田有策】 | (SL04) 特別講演 渡邊 秀臣 医療安全文化醸成のための 多職種連携教育 | | (PNO7) パネル 患者参加型医療安全の進め方 【新村美佐香】 | (SL13) 特別講演 佐々木 毅 画像処理の医療安全対策 |
| 12:00 | | | | | |
| | | | | | |
| 13:00 | | | | | |
| | (EL01) 教育講演 廣井 悠 災害リスクマネジメント 【酒井亮二】 | (SL05) 特別講演 深山正久 病理からみた 今後の医療安全のあり方 【佐々木 毅】 | | (EL04) 教育講演 関崎 直人(PMDA) PMDAにおける医薬品安全対策の取り 組み 【清野敏一】 | (PN11) パネル 歯科から多職種の方へ伝えたい 口腔健康管理(口腔ケア) と医療安全 【酒巻裕之】 |
| 14:00 | | | (PN05) パネル 医療安全文化を定着させる活動 【布施淳子】 | | |
| | | (PN03) パネル AIへの期待と課題 ～医療安全への適応を 議論する契機として～ 【岡田有策】 | | (EL05) 平井 隆昌 (PMDA) 誤接続防止コネクタの国内導入につ いて 【清野敏一】 | |
| 15:00 | (市民公開講座) 日本の医療安全は どこまで進んだか? 【許 俊鋭】 | | (SL08) 特別講演 新村美佐香 院長への死亡調査報告のための 準備の仕方 | | (SL14) 特別講演 千田雅之 外科分野における医療安全の 地域連携のあり方 |
| | (一般市民の参加費無料) | | (EL03) 教育講演 山田 宇以 せん妄患者への安全対策 | (PN08) パネル 周術期医療と医療安全 【佐和貞治】 | (SL15) 特別講演 小田克彦 手術室における医療安全 事故を未然に防ぐ工夫 |
| 16:00 | | (SL06) 特別講演 岡田有策 マネジメント講習の紹介 | | | |
| | | | (PN06) パネル 転倒転落への最新の取り組み 【秋野裕信】 | | |
| 17:00 | | (SL07) 特別講演 岡田有策 マネジメント講習実践の紹介 | | | (PN12) パネル 誤認防止の院内対策 【大澤智美】 |
| | (EL02) 教育講演 両面 晴好 セコムによる地域医療での 安全推進システム | | (SL09) 内山秀文 AIによる看護記録解析に基づく 転倒転落予測システム 【亀山周二】 | (PN09) パネル 医療安全管理室で取り組む 見落とし防止システムの構築 【楠本茂雄】 | |
| 18:00 | | | | | |

【 】内は座長氏名

日程表 2019年2月9日(土)

| 会場 | 第6会場 | 第7会場 | 第8会場 | 第9会場 | ポスター会場 | 企業展示 |
|-------|------------------------------------|--|--|--|-------------------------|----------------|
| 部屋名 | 法文1号館3階 27番講堂 | 山上会館 2階国際議場 | 工学部2号館1階 213番講堂 | 医学部2号館3階 大講堂 | 山上会館 2階ロビー | 法文1号館 1階ロビー |
| 9:00 | | | | | | |
| | (NP01)一般演題 医療機器(1) 【鈴木 聡】 | (PN13) パネル 「医療安全」の切り札である 「患者参加型医療」とは何か 【勝村久司】 | | | | |
| 10:00 | | | (PN16) パネル 生活にねざした科学技術の発展と 医療安全: 呼吸・循環管理を中心に 【藤井千枝子】 | | | |
| | (NP02)一般演題 医療機器(2) 【田中浩平】 | | | (WS02) ワークショップ: 医療機器の安全な使用を 多職種で語り合う交流会 コーディネーター 石井 宜大、青木 郁香 | | |
| 11:00 | | (PN14) パネル これで良いのか 「医療事故調査制度」 ～課題と提言～ 【木下正一郎】 | (SL16) 特別講演: 百 賢二 在宅医療での医薬品の安全な使用 【生島五郎】 | | | |
| | (NP03)一般演題 教育・確立行動 【三上久美子】 | | | | | |
| 12:00 | | | | | | |
| | | | | | ポスター掲示 (PP1) 安全教育 | |
| 13:00 | | | | | (PP2) 転倒転落 | 企業展示 |
| | (NP04)一般演題 コミュニケーション 【西根菜穂子】 | (EL06) 教育講演 森村尚登 地域医療における医療事故への 救急救命の新たな取り組み 【水本一弘】 | (PL02) 会長講演 衣川さえ子 地域医療での医療安全への 取り組みの重要性 | | | |
| 14:00 | | | (EL07) 教育講演 熊谷雅美 医療安全の地域連携に関する 日本看護協会の取り組み 【衣川さえ子】 | | | |
| | (NP05)一般演題 災害・急変対応 【廣井 透雄】 | (SN01) シンポジウム 今後の政策動向 —医師の働き方改革と 医療事故調査制度 【井上清成】 | (EL08) 教育講演 中川 茂 人工知能による介護での IBMのヘルスケア 【廣幸英子】 | | | |
| 15:00 | | | | | | |
| | (NP06)一般演題 安全管理 【手塚則明】 | | | | | |
| 16:00 | | | (PN17) パネル 在宅療養生活における 医療安全の現状と課題 【梅津靖江】 | (WS03) ワークショップ: 看護の安全を 多職種で語り合う交流会 コーディネーター 新村 美佐香、三上 久美子 | | |
| | (NP07)一般演題 チーム医療 【海渡 健】 | (PN15) パネル 医療安全対策地域連携加算は 何をもたらしたか? 【生島五郎】 | | | ポスター討論 【長島 久】 | |
| 17:00 | | | (NP09)一般演題 社会検証薬学 【奥貞 智】 | | | |
| | (NP08)一般演題 画像・病理 【永山正雄】 | | | | | |
| 18:00 | | | (NP10)一般演題 マネジメント【辰巳陽一】 | | ポスター撤去 | |

【 】内は座長氏名

日程表 2019年2月10日(日)

| 会場 | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 | 第4会場 | 第5会場 |
|-------|---|--|--|--|--|
| 部屋名 | 法文1号館2階 25番講堂 | 法文2号館2階 31番講堂 | 法文1号館1階 21番講堂 | 法文1号館1階 22番講堂 | 法文1号館3階 26番講堂 |
| 9:00 | | | | | |
| | (SL17)特別講演 辰巳陽一 医療における心理的安全性の 重要性とその背景 | | (SL20) 特別講演 井上清成 医療事故における 医療機関の敗訴の特徴について | (SL25) 特別講演 山本宗孝 当院における医療安全推進部の 進め方のポイント | (SL27) 特別講演 西隈 菜穂子 患者相談におけるポイント |
| 10:00 | | | (SL21) 特別講演 井上清成 医療事故裁判の一般的な 進行方法について | (SL26) 特別講演 橋田 亨 医薬品副作用マネジメント ～院内で上手に協働するポイント | |
| | | (SN04) シンポジウム 医療安全推進への提言 【許 俊説】 | | | (WS01)ワークショップ: 医療安全管理者・対話推進者 集まれ! |
| 11:00 | (SN02) シンポジウム 地域でつながる医療安全に向けて 【橋田 亨】 | | (SL22) 特別講演 水本 一弘 臨床研究における 患者安全管理のポイント | (PN20) パネル 高齢者の安全な薬物療法の推進を 目的としたポリファーマシーの 問題と対策 【百 賢二】 | 悩みを共有し、 医療安全活動の改善につなげよう! コーディネーター 松村由美 (定員:50名) ※ 当日先着順にて 定員に達したら締め切りです |
| 12:00 | | | (EL09) 教育講演 藤田真幸 院内死亡例の死因調査における 重要なポイント | | |
| | | | | 12:15-12:46 定例代議員大会 | |
| 13:00 | | | | | |
| | (PL03) 会長講演 岡田有策 医療安全の地域連携における ITのあり方 | (SL18) 特別講演 大滝恭弘 医療現場における法的責任と 紛争防止に向けて | (SL23) 特別講演 海渡 健 医療安全のための 高信頼性組織構築のポイント | | (NP11)一般演題 薬剤(1) 【生島五郎】 |
| 14:00 | | | | | |
| | | (PN18) パネル 医療安全から見た 甲状腺・副甲状腺手術における 術後出血 【福成信博】 | (SL24)特別講演 加藤 直樹 重大事故に際しての 危機管理の大原則 | (SN05) シンポジウム 患者安全第一のための 基本戦略は何か? 【酒井亮二】 | (NP12)一般演題 薬剤(2) 【河瀬 留美】 |
| 15:00 | (SN03) シンポジウム 医療・介護・福祉の 地域連携の作り方 【辰巳陽一・橋田 亨】 | | | | |
| | | | (PN19) パネル 医療現場における 多様な安全への取り組み 【木下美佐子】 | | (NP13)一般演題 医療事故 【梁 善光】 |
| 16:00 | | (SL19) 特別講演 瀬戸佳世 甲状腺・内分泌専門病院における地域連 携への取り組み 【福成 信博】 | | (PN21)パネル リスク管理と危機管理Update 【永山正雄】 | |
| | 閉会式 | | | | |
| 17:00 | | | | | |

【 】内は座長氏名

日程表 2019年2月10日(日)

| 会場 | 第6会場 | 第7会場 | 第8会場 | 第9会場 | ポスター会場 | 企業展示 |
|-------|-------------------------------------|---|--|--|--|----------------|
| 部屋名 | 法文1号館3階 27番講堂 | 山上会館 2階国際会議場 | 工学部2号館1階 213番講堂 | 医学部2号館3階 大講堂 | 山上会館 2階ロビー | 法文1号館 1階ロビー |
| 9:00 | | | | | | |
| | (NP14)一般演題 地域連携(1) 【鈴木佳世子】 | (PN22) パネル 外国人診療の医療安全 【上里彰仁】 | (PN24) パネル 医療安全教育を担う看護教員と 臨床看護師の教育実践力を高める 連携を創造する 【衣川さえ子】 | | | |
| 10:00 | (NP15)一般演題 地域連携(2) 【高井 雄二郎】 | | | | | |
| | | (SL28) 特別講演 仮) 在宅からの持ち込み医療機器に 関連するインシデント 【石井 宣大】 | (PN25) パネル 地域連携における 医療安全対策の推進 ー看護師が持つべきコンピテンシー とその育成ー 【渡邊八重子】 | (WS04) ワークショップ: 医薬品の安全な使用を 多職種で語り合う交流会 コーディネーター 田中 守、河瀬 留美 | ポスター掲示 (PP3) 医薬品・機器 (PP4) 安全管理 | |
| 11:00 | (NP16)一般演題 インシデント報告 【近本 亮】 | (SL29) 特別講演 笠井 健 仮) 病院設備から在宅までの 安全管理と災害対策の実践 【石井 宣大】 | | | | |
| 12:00 | | | | | | 企業展示 |
| | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | |
| | (NP17)一般演題 転倒・転落(1) 【川原初恵】 | (SN06) シンポジウム 地域に根ざした 医療安全活動の推進 【小林美雪】 | (PN26) パネル 患者高齢化と看護安全 【新村美佐香】 | | | |
| 14:00 | | | | | | |
| | (NP18)一般演題 転倒・転落(2) 【堀田まゆみ】 | | | | ポスター討論 【鷺山厚司】 | |
| 15:00 | | | (PN27) パネル 看護師の役割拡大に伴う 医療安全について考える ー診療看護師(NP)の活動と医療安全 【岩本郁子】 | | | |
| | (NP19)一般演題 ヒューマンファクターズ 【鈴木 聡】 | (PN23) パネル 医療機器(2) 臨床工学技士不在施設における 生命維持管理装置の安全管理 【青木郁香】 | | | ポスター撤去 | |
| 16:00 | | | | | | 展示片づけ |
| | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | |

【 】内は座長氏名

企業・報道関係の方へ

1. 企業展示

1) 展示場所

- ・ 法文 1 号館 1 階ロビーです。
- ・ 各企業の展示は学会から指定された場所を使用してください。配置表を別送します。

2) 展示時間

- ・ 2 月 9 日 (土) 9:00 ～ 2 月 10 日 (日) 17:00

3) 資材の事前搬入

- ・ 展示業者に直接連絡します。

4) タクシーでの搬入の方法

- ・ 東大本郷キャンパス正門で下車、徒歩 5 分

5) 自家用車での搬入の方法

- ・ 東大構内へは竜岡門からお入りください。
竜岡門からの広い道路を直進→道路右側の東大病院前をさらに直進→
バスロータリーを直進すると駐車ゲートがある→ゲートを通過後道が左に曲がる→
曲がり終えて上り坂を直進し坂を登りきり停車→法文 1 号館 (左側)
- ・ 東大構内の駐車料金は、30 分まで無料・以降 200 円/20 分、24 時間ごと最大 3,000 円です。

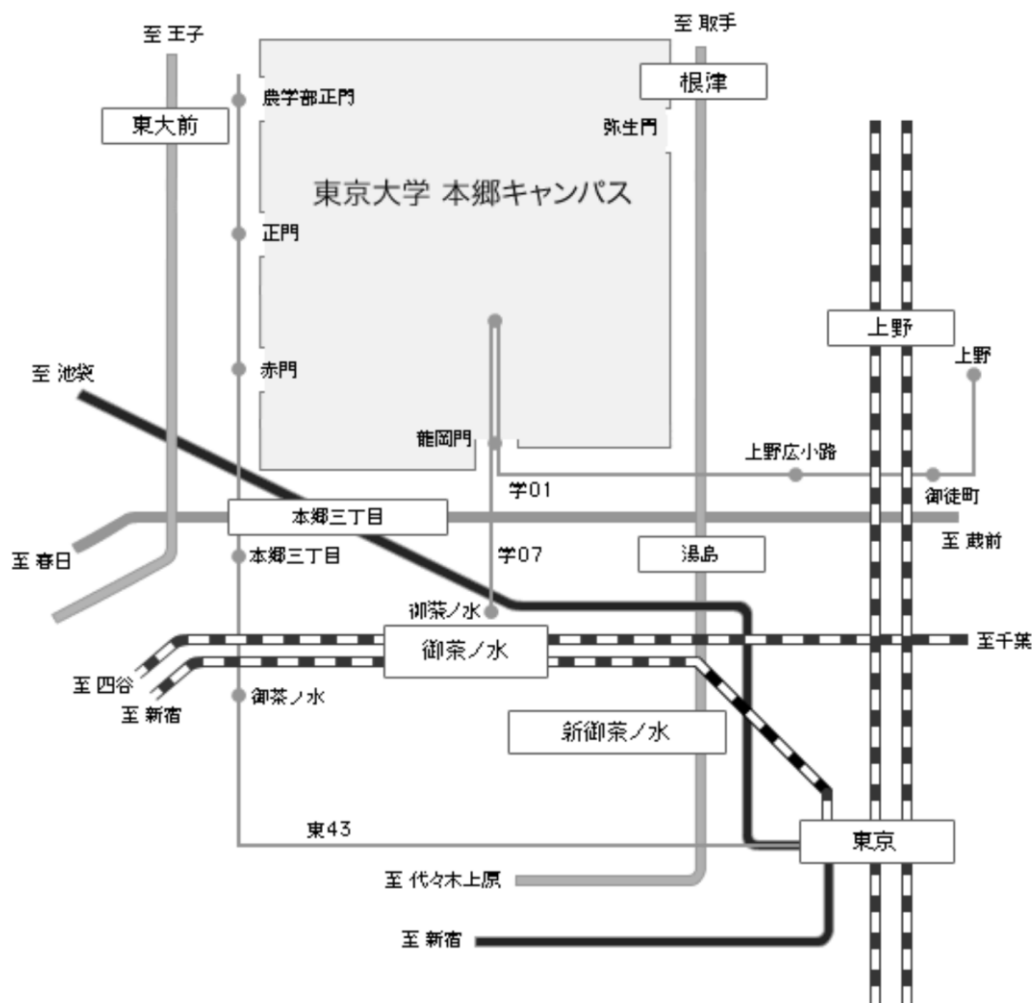
6) 貸出物

- ・ 以下のものを貸し出します。
- ・ テーブル(幅 1800mm×奥行 900mm) 1 台、椅子 1 脚
- ・ 電源: 壁コンセントがあります (上記の配置表に明記します)。
- ・ 利用される場合は 10 メートル電源コード延長電源コードと電源タップを持参してください。
- ・ その他(バックパネル等)はご自身ご用意してください。

2. 報道機関、出版社の取材記者の方へ

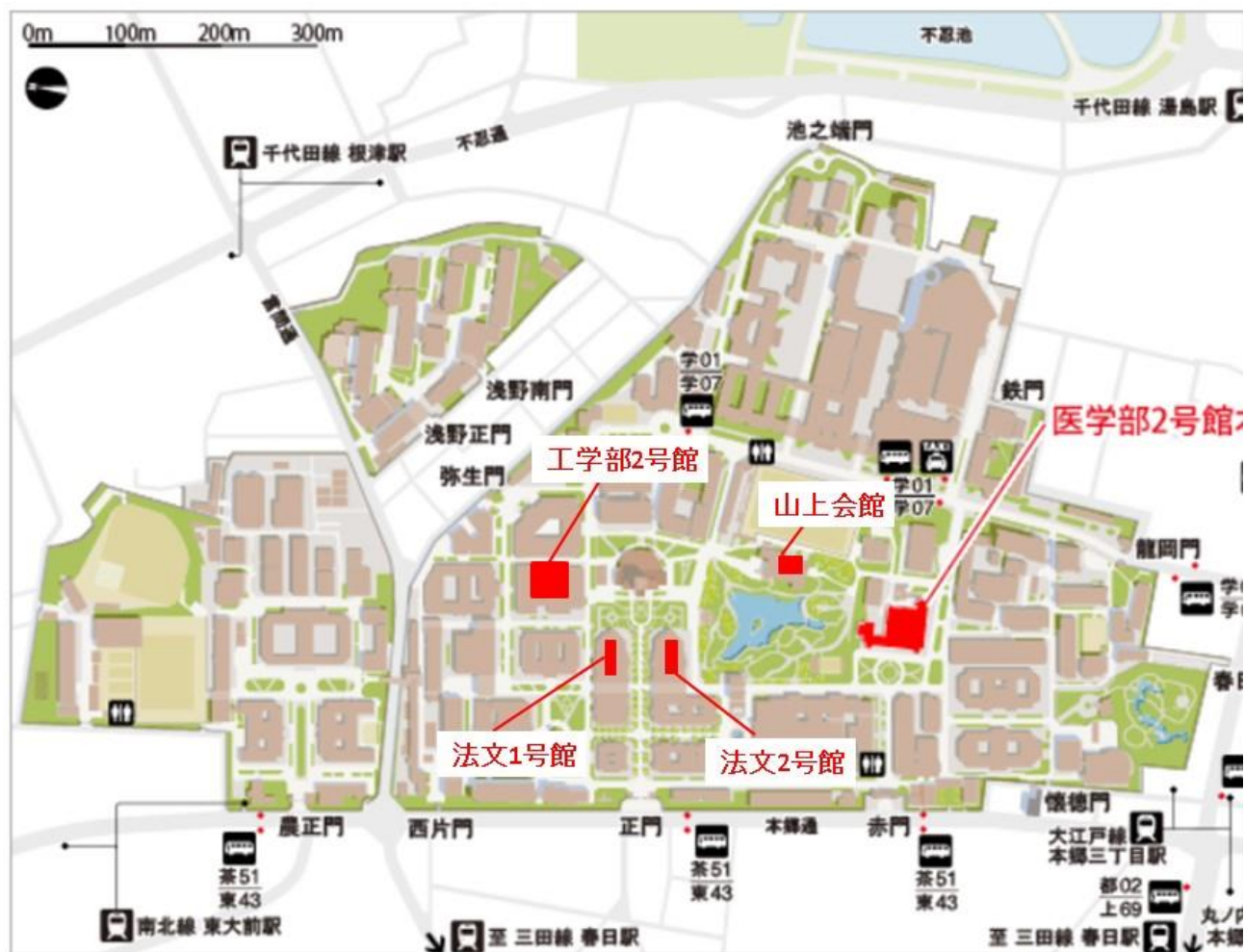
- ・ 参加費は無料で、事前申し込みは一切不要です。事前の問い合わせは不要です。
- ・ 取材記者の方は全員とも当日受付にて名刺をお渡しく下さい。
- ・ 抄録集(電子版)をお知らせしますので、携帯端末(スマートフォンなど)を持参してください。
- ・ 抄録集(印字版)をご希望の際には、1 部 3,000 円にて当日購入いただけます。
- ・ 本学術総会の開催について貴社を通じて広く社会へ広報していただけますと幸いです。

交通のご案内



| 最寄り駅 | 所要時間 |
|-------------------|---------|
| 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線） | 徒歩 8 分 |
| 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） | 徒歩 6 分 |
| 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線） | 徒歩 8 分 |
| 東大前駅（地下鉄南北線） | 徒歩 1 分 |
| 春日駅（地下鉄三田線） | 徒歩 10 分 |

会場のご案内



| | | |
|--------|---------------------------------------|--------|
| 第1会場 | 法文1号館2階 | 25番講堂 |
| 第2会場 | 法文2号館2階 | 31番講堂 |
| 第3会場 | 法文1号館1階 | 21番講堂 |
| 第4会場 | 法文1号館1階 | 22番講堂 |
| 第5会場 | 法文1号館3階 | 26番講堂 |
| 第6会場 | 法文1号館3階 | 27番講堂 |
| 第7会場 | 山上会館2階 | 国際会議場 |
| 第8会場 | 工学部2号館1階 | 213番講堂 |
| 第9会場 | 医学部2号館3階 | 大講堂 |
| ポスター会場 | 山上会館2階 | ロビー |
| 企業展示 | 法文1号館1階 | ロビー |
| 受付 | 法文1号館1階 | ロビー |
| 懇親会場 | ホテル フォレスト本郷1階 (2月9日(土) 午後6時30分～8時30分) | |

飲食について

会場内での飲食・喫煙は一切禁止されています。

(昼食)

安田講堂前広場の地下に学生食堂と生協があります。

東大正門～本郷三丁目交差点付近に多数の飲食店があります。

後樂園ドームシティーには多数の飲食店があります。(タクシー5分。徒歩15分第8会場)

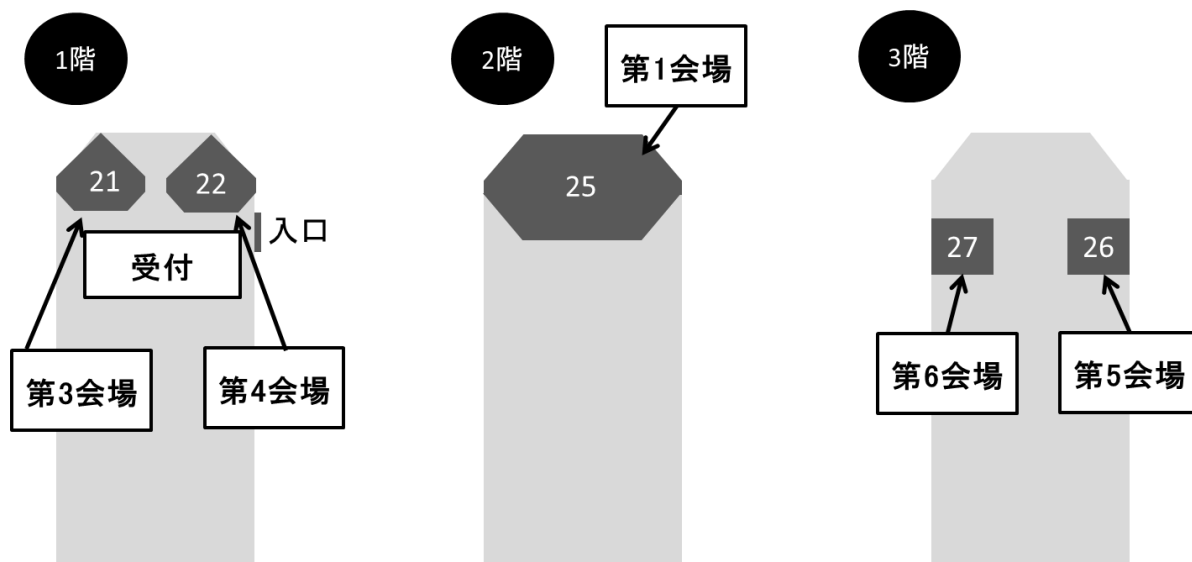
本郷キャンパス 中央食堂(地下)

[本郷アクセスマップ](#)



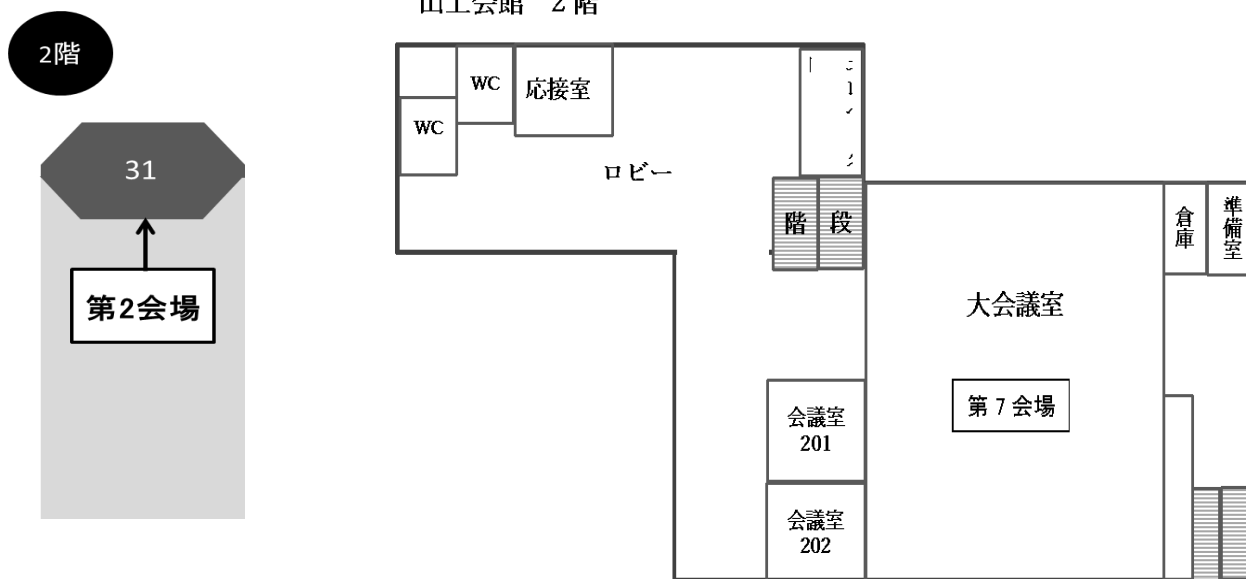
各会場のご案内

法文1号館

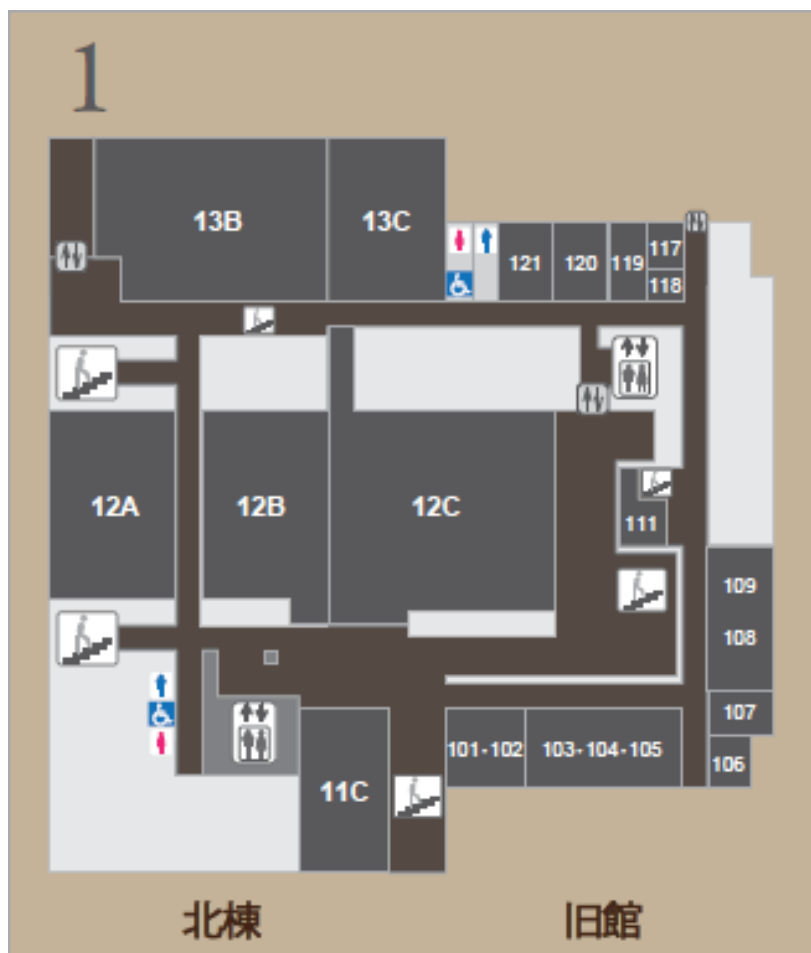


※ 会場に表示のある白抜き数字は「部屋番号」です。

法文2号館



工学部 2 号館 1 階 213 番講堂 (12C です)



座長・演者へのお知らせとお願い

1. 座長の方へ

- ・ 座長の受付はございません。ご担当セッションの開始 10 分前までにご入場ください。
- ・ 進行は時間厳守でお願いいたします。アナウンス係の準備はございませんので、時間になりましたら、開始してください。

2. 口演発表者の方へ

- ・ 一般演題(口演)は 1 題 10 分(質疑時間 3 分を含む)です。
- ・ 各セッション開始の 10 分前までに、次演者席(各会場左側前方)にお越しください。

3. 発表形式について

- ・ パワーポイント用データ保管の USB メモリーをご持参ください。
- ・ USB メモリーをご自身で PC に装着したのちご自身でご操作ください。
- ・ リモコン操作器具を用意いたします。
- ・ PC(Windows10 ないし Windows7)一台をご利用できます。
- ・ マッキントッシュ PC をご持参の場合: モニターとの接続ケーブルをご持参ください。

4. ポスター発表者の方へ

- 1) 会場
山上会館 2 階 ロビー
- 2) 討論
 - ・ ポスター発表者は各日毎に定められた時間帯に当該ポスター前にて質疑応答ください。

| | 掲示 | 討論 | 撤去 |
|----------|-------------|-------------|-------------|
| 2 月 9 日 | 10:00~17:40 | 16:00~17:40 | 17:40~18:00 |
| 2 月 10 日 | 9:00~15:40 | 14:00~15:40 | 15:40~16:00 |

ポスター掲示終了後、ポスターをすみやかに持ち帰りください。
撤去終了時刻以降の掲示物は廃棄します。

- 3) 展示方法
 - ・ ポスター展示板に演題番号を掲示しますので、当該番号のポスター板面をご使用ください。
 - ・ 展示板に掲載可能なポスターは A1 版縦長置き、縦列二枚までです。
 - ・ 用紙内の最上部にタイトルと発表者一覧を明記ください。
 - ・ ポスター掲示用のスコッチテープをご持参ください。

5. ペイシェントセーフティー賞

- ・ 一般演題から審査選考される「ペイシェントセーフティー賞」の賞状は、会議後 2-3 か月後にお知らせします。

プログラム 2月9日(土)

(第1会場) 2019年2月9日(土)午前
東京大学法文1号館2階25番講堂

9:00-9:02 開会 岡田有策

PN01: パネルディスカッション

9:02-10:00 テーマ: IMS グループに於ける安全な医療と介護の体制づくり

座長: 岡田 有策 (慶應義塾大学 教授)

- 1) 転倒・転落に関わる利用者要因の抽出
阿部 龍太 (イムスケアふじみの)
- 2) 注射調製作業において発生しうる重要なエラーとそれを回避するための手順書の作成
潮 幹子 (横浜旭中央総合病院)
- 3) 誤薬防止への取り組み: 正確に経口与薬ができる手順書の検討～危険源を分析～
石井 由実子 (イムス葛飾ハートセンター)
- 4) 医療安全リスクマネージャの必要要件としての一提案
笹原 愛 (山形ロイヤル病院)
- 5) インシデントレポートにおけるアドバイスデータの活用
栗本 卓 (鶴川サナトリウム病院)

ディスカッション

SL01: 特別講演

10:00-11:00 テーマ: 人間工学的基礎知識を医療安全活動に展開するための一工夫

演者: 岡田 有策 (慶應義塾大学 教授)

(第1会場) 2019 年 2 月 9 日(土) 午前
東京大学法文 1 号館 2 階 25 番講堂

PN02 : パネルディスカッション

11:00-12:00 テーマ : 鉄道事業者の安全管理活動の紹介

座長 : 岡田 有策 (慶應義塾大学 教授)

1) 「東京メトロの安全活動の紹介 (仮題)」

山口 浩二 (東京地下鉄株式会社 鉄道本部 安全・技術部)

2) 「東武鉄道の安全活動の紹介 (仮題)」

田口 康一 (東武鉄道株式会社 鉄道事業本部 安全推進部)

**(第1会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館2階25番講堂**

EL01 : 教育講演

13:00-13:50 テーマ: 災害リスクマネジメント

座長: 酒井 亮二 (国際医療リスクマネジメント学会理事長/日本医療安全学会理事長)

演者: 廣井 悠 (東京大学大学院/工学系研究科/都市工学専攻/都市情報・安全システム研究室)

市民公開講座 (本講座に限り市民の参加費は無料)

14:00-17:00 テーマ: 日本の医療安全はどこまで進んだか?

(概要) 日本で医療事故が国民的な話題となって20年を経ました。本市民講座の目的は、市民・医療者に対して日本の医療安全活動の実態を理解してもらい、会場の皆様からご意見をお聞きし、市民とともに患者安全の推進をいたします。

座長: 許 俊鋭 (東京都健康長寿医療センター センター長)

14:00-14:40 日本の医療安全活動の歴史を振り返って

許 俊鋭 (東京都健康長寿医療センターセンター長)

14:40-15:20 日本麻酔科学会における医療安全への取り組みの歴史

稲田 英一 (日本麻酔科学学会理事長)

15:20-16:00 私の医療安全活動への取り組みの歴史

勝村 久司 (医療情報の公開・開示を求める市民の会 代表世話人)

16:00-16:40 私の医療安全活動への取り組みの歴史

宮脇 正和 (医療過誤原告の会 会長)

総合討論

(第 1 会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
東京大学法文 1 号館 2 階 25 番講堂

EL02 : 教育講演

17:10-18:00 テーマ : セコムによる地域医療での安全推進システム

演者: 雨面 晴好 (セコム医療システム株式会社 企画本部・主任)

(第2会場) 2019年2月9日(土)午前
東京大学法文2号館2階31番講堂

SL02 : 特別講演

9:00-9:40 テーマ: 医療事故時の広報のポイント

演者: 許 俊鋭 (東京都健康長寿医療センター センター長)

SL03 : 特別講演

9:50-10:30 テーマ: 患者・家族との対話に向けた医療者に必要なコミュニケーション

座長: 松村 由美 (京都大学医学部附属病院医療安全管理部部長、教授)

演者: 井手口 直子 (帝京平成大学薬学部コミュニケーション学教授)

PL01 : 会長講演

10:30-11:10 テーマ: なぜ私たちはダブルチェックをするのか？
～そのダブルチェック本当に必要ですか？～

演者: 松村 由美 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理部・教授)

SL04 : 特別講演

11:20-12:00 テーマ: 医療安全文化醸成のための多職種連携教育

演者: 渡邊秀臣 (群馬大学 副学長 (WHO 連携、医療安全担当)
多職種連携教育研究研修センター長 (WHO 協力センター)
保健学研究科 教授)

(第2会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
東京大学法文 2 号館 2 階 31 番講堂

SL05 : 特別講演

13:00-13:40 テーマ: 病理から見た今後の医療安全のあり方

座長: 佐々木 毅 (東京大学大学院医学系研究科 次世代病理情報連携学講座 特任教授)

演者: 深山 正久 (東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学分野教授)

PN03 : パネルディスカッション

13:50-15:20 テーマ: AI への期待と課題 ～医療安全への適応を議論する契機として～

座長: 岡田有策 (慶應義塾大学理工学部管理工学科ヒューマンファクター研究室教授)

1. 櫻井 彰人 横浜国立大学 先端科学高等研究院 特任教員(教授)、慶應義塾大学名誉教授
「人工知能の行っていること、行っていないこと、行ってはならないこと」
2. 若原 敏裕 SIP インフラ維持管理・更新・マネジメント技術 サブ・プログラム・ディレクター
「社会インフラデータ運用の現在と未来」
3. 岡田 有策 慶應義塾大学理工学部 教授
「ひやりはっとデータに対するテキストマイニングを用いた分析」

ディスカッション

SL06 : 特別講演

15:30-16:20 テーマ: マネジメント能力向上講習の紹介

演者: 岡田 有策 (慶應義塾大学理工学部管理工学科ヒューマンファクター研究室教授)

SL07 : 特別講演

16:30-17:30 テーマ: マネジメント能力向上講習の実際

演者: 岡田 有策 (慶應義塾大学理工学部管理工学科ヒューマンファクター研究室教授)

(第3会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学法文1号館1階21番講堂

PN04 : パネルディスカッション

9:00-12:00 テーマ: 転倒・転落を多職種で防止する

座長: 秋野 裕信 (福井大学医学部附属病院医療安全管理部・教授)

- 1) チーム医療の目線から見た転倒転落対策のかたち
辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)
- 2) 転倒対策を考える - 整形外科医の視点から -
小久保 安朗 (福井大学医学部 整形外科 准教授)
- 3) 転倒転落を考える - 理学療法士の立場から -
渡邊 潤子 (名古屋医療センター リハビリテーション科 理学療法士長)
- 4) 転倒・転落事故防止に向けた多職種チームの中での薬剤師の関わり
重面 雄紀 (京都大学医部附属病院 薬剤部 薬剤師)、松原和夫 (同 薬剤部 教授)
- 5) 離床センサーのセンサーコールデータから転倒転落対策を考える
伊藤 幸子 (福井大学医学部附属病院 看護部 看護師長)
- 6) 看護実践場面でのリスクテイキング行動から、転倒・転落防止について考える
藤井 真砂子 (福井大学医学部附属病院 看護部 統括師長)、秋野裕信 (同 医療安全管理部)

ディスカッション

**(第3会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館1階21番講堂**

PN05 : パネルディスカッション

13:00-14:30 テーマ: 医療安全文化を定着させる活動

座長: 布施 淳子 (山形大学大学院医学系研究科看護学専攻 教授)

- 1) 看護職ジェネラルリスクマネージャーが担う医療安全教育の様相
布施 淳子 (山形大学大学院医学系研究科看護学専攻 教授)
- 2) 医療安全管理部から見た組織ガバナンス
佐藤 慎哉 (山形大学附属病院 副病院長 医療安全管理部長)
- 3) 携帯端末と電子タグを活用したベッドサイド安全管理システムとその応用
大佐賀 敦 (秋田大学医学部附属病院 医療情報部 副部長)

ディスカッション

SL08 : 特別講演

14:40-15:10 テーマ: 院長への死亡調査報告のための準備の仕方

演者: 新村 美佐香 (横浜病院グループ医療安全推進部部长)

EL03 : 教育講演

15:20-16:00 テーマ: せん妄患者への安全対策

演者: 山田 宇以 (聖路加国際病院心療内科)

(第3会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
東京大学法文 1 号館 1 階 21 番講堂

PN06 : パネルディスカッション

16:10-17:00 テーマ: 転倒転落への最新の取り組み

座長: 秋野 裕信 (福井大学医学部附属病院医療安全管理部・教授)

- 1) 転倒・転落リスクアセスメントツールの開発・導入・使用・評価について
横田 慎一郎 (東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 副部長 / 特任講師(病院))
- 2) 転倒転落の防止対策
中間 浩一 (霞ヶ関南病院 地域リハビリテーション推進部)

ディスカッション

SL09 : 特別講演

17:10-18:00 テーマ: AI による看護記録解析に基づく転倒転落予測システム

座長: 亀山 周二 (NTT 東日本関東病院院長)

演者: 内山 秀文 (株式会社 FRONTEO ヘルスケア、研究・解析部副部長)

**(第4会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学法文1号館1階22番講堂**

SL10 : 特別講演

9:00-9:40 テーマ:慶応義塾大学における画像・検査未読対策の現状と課題

座長: 長谷川 奉延 (慶應義塾大学病院副院長、医療安全管理部部長・教授)

演者:

藤澤 大介 (慶應義塾大学病院医療安全管理部 副部長・准教授)

長谷川 奉延 (慶應義塾大学病院医療安全管理部 部長・教授)

SL11 : 特別講演

9:40-10:20 テーマ:院内医療事故調査の進め方

演者: 小林 弘幸 (順天堂大学医学部病院管理学研究室・教授、医院医療安全推進部・部長)

**(第4会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学法文 1 号館 1 階 22 番講堂**

PN07 : パネルディスカッション

10:30-12:00 テーマ:患者参加型医療安全の進め方

(概要) 医療安全対策を進めていく上で、医療者側と患者・家族側が協働で取り組むことが必要であると言われている現状がある。各施設においては、様々な取り組みが進められているが、なかなか進んでいかない等の声も聞かれ、各施設で苦慮している状況も見受けられる。今回 3 名のパネリストによって、患者・家族が医療安全に参加することの重要性、患者・家族が参加する場合のポイント、今後の課題について、それぞれの報告を聞きながら、よりよい患者・家族参加型医療安全の在り方を考えてみる。

座長：新村 美佐香（YMG 医療安全推進部部長、菊名記念病院 医療安全管理室室長）

1) 医療安全活動に患者・家族が参加することの重要性

新村 美佐香 （YMG 医療安全推進部部長、菊名記念病院 医療安全管理室室長）

2) 成功事例と失敗事例から学ぶ患者参加のポイント

楠本 茂雅 （ベルランド総合病院 クオリティ管理センター部長）

3) 患者参加型医療安全へ向け取り組むべき課題」

大原 志歩 （済生会横浜市東部病院 TQM センター 医療安全管理室）

ディスカッション

(第4会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館1階22番講堂

EL04 : 教育講演

13:00-13:50 テーマ:PMDAにおける医薬品安全対策の取り組み

座長: 清野 敏一 (帝京平成大学薬学部教授、東大病院前薬剤部副部長)

演者: 関崎 直人 (独)医薬品医療機器総合機構 安全第二部 調査専門員

EL05 : 教育講演

14:00-14:50 テーマ: 誤接続防止コネクタの国内導入について

座長: 清野 敏一 (帝京平成大学薬学部教授、東大病院前薬剤部副部長)

演者: 平井 隆昌 (独) 医薬品医療機器総合機構 医療機器品質管理・安全対策部 医療機器安全課

PN08 : パネルディスカッション

15:00-16:50 テーマ:周術期医療と医療安全

(概要) 周術期医療を取り巻く医療安全に関わる昨今の状況は、超高齢者を対象とする高難度新規医療技術導入などの新たな側面が加わってきた。医療安全向上に関わる周術期センターの役割や、麻酔科医の立場、高難度医療技術の担当医の立場などから、これらの医療にどう取り組んでいくかについて議論を深めたい。

座長: 佐和 貞治 (京都府立医科大学附属病院副院長 医療安全管理部部長)

1) 周術期医療と医療安全: 事例検討- (周術期センター)

森山 潔 (杏林大学麻酔科)

2) 周術期医療と医療安全: 事例検討-麻酔

倉橋 清泰 (国際医療福祉大学三田病院麻酔科)

3) 周術期医療と医療安全: 事例検討-循環器内科

中村 猛 (京都府立医大循環器内科医療安全管理部)

ディスカッション

**(第4会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
東京大学法文1号館1階22番講堂**

PN09 : パネルディスカッション

17:00-18:00 テーマ:医療安全管理室で取り組む見落とし防止システムの構築

オルガナイザー 楠本 茂雅 (ベルランド総合病院 クオリティ管理センター 部長)

1) 見落としが発生するメカニズムと再発防止のアプローチ

ベルランド総合病院 クオリティ管理センター 部長 楠本 茂雅

2) 見落とし防止対策での臨床検査技師の役割

ベルランド総合病院 臨床検査科 主任 伊賀 恵

3) 見落とし防止のための医師へのフィードバックシステムの構築

ベルランド総合病院 企画室 主任 六浦 亮人

4) 見落とし(説明漏れ)の発生後の医師と患者への対応

ベルランド総合病院 医療安全管理室 室長 太田 真希

ディスカッション

**(第5会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学法文 1 号館 3 階 26 番講堂**

PN10: パネルディスカッション

9:00-10:20 テーマ:医療情報システムで実現する医療安全
～読影レポートの読み落とし事例から考える～

座長: 海渡 健 (東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部)

- 1) 医療安全管理者の立場から: 事例の概略と振り返り
齋藤 義貴 (IMS グループ 東戸塚記念病院)
- 2) 情報システム担当者の立場から: システムの開発と実装
青木 陽介 (社会医療法人財団互惠会 大船中央病院 放射線科)
- 3) ベンダーの立場から: 課題と展望
児玉 義憲 (株式会社メドレー CLINICS 事業部 電子カルテグループ)

ディスカッション

SL12: 特別講演

10:30-11:10 テーマ:画像診断報告書の未確認・非共有事故の発生パターンと対策

演者: 海渡 健 (東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部)

SL13: 特別講演

11:10-12:00 テーマ:画像処理の医療安全対策

演者: 佐々木 毅 (東京大学医学部・次世代病理連携学講座教授)

**(第5会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階26番講堂**

PN11 : パネルディスカッション

13:00-14:30 テーマ:歯科から多職種の方へ伝えたい口腔健康管理（口腔ケア）と医療安全

(概要) 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムにおいて、対象者の栄養状態の改善や維持が重要です。近年、口腔機能と全身の健康状態との関係が明らかになり、口腔内の状態が不良で歯が欠損していると食物を摂取することが困難となり、適切な対応がないとフレイルや、さらに進んでサルコペニアに至ることがあります。同様に口腔の機能は全身の栄養状態に影響を受けることがあります。口腔機能では、上下顎の歯が咬み合わせ（咬合すること）、ならびに口腔周囲の表情筋や咀嚼筋群、開口筋群の機能が重要となります。

歯科界では、従来の口腔内の清掃を中心としたケアを「口腔衛生管理」、咀嚼や会話等に係る管理について「口腔機能管理」を実施しており、両者を合わせ「口腔健康管理」と称するようになりました。

現場では、義歯を装着している対象者は義歯を装着して食事をするのが重要となる一方、病態によっては義歯の撤去を余儀なくされることがあります。また、義歯が装着されたまま過ごし、口腔内が不潔な状態の対象者が存在することもあります。義歯装着の有無によらず、口腔衛生状態が不良であったり、口腔清掃時に細菌数が増大した洗浄液が咽頭部に流入したりすると、嚥下性肺炎を発症することがあります。

そこで本パネル討論会では、地域包括ケアシステムに係る医療者・介護者に共通する、義歯の取り扱いを含めた口腔健康管理をテーマにして、1) 口腔健康管理について、2) 病院や地域における口腔健康管理について、3) 医療安全の観点からみた口腔健康管理について検討したく、第一線でご活躍の2名の講師をお迎えして口腔健康管理について検討するパネル討論会を企画いたしました。

座長により口腔健康管理の重要性、必要性について概説の後、地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 歯科・歯科口腔外科部長 秋葉正一先生、あおぞら診療所 歯科衛生士 山口朱見様から、各講師の経験を踏まえて、実施されている口腔健康管理の概要、そして患者安全の配慮のもとに口腔健康管理を実施する方法等について解説をして頂きます。

本パネル討論会の内容をさらに発展させて、各現場における口腔健康管理で活用できるよう、多職種の方々と討論ができると幸甚です。

座長：酒巻 裕之（歯科医師、千葉県立保健医療大学 健康科学部 歯科衛生学科 教授）

パネリスト

秋葉 正一（歯科医師、地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院歯科・歯科口腔外科部長）

山口 朱見（歯科衛生士、医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所）

ディスカッション

(第5会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階26番講堂

SL14 : 特別講演

14:40-15:30 テーマ:外科分野における医療安全の地域連携のあり方

演者: 千田 雅之 (獨協医科大学医学部呼吸器外科学講座 教授)

SL15 : 特別講演

15:40-16:20 テーマ:手術室における医療安全 事故を未然に防ぐ工夫

演者: 小田 克彦 (岩手県立中央病院心臓血管外科)

PN12 : パネルディスカッション

16:30-17:50 テーマ: 誤認防止の院内対策

(概要) 患者誤認は、医療における様々な場面で発生している。その要因は、言語の聞き間違い、文字・表示の読み違い、慣れた業務における勘違い、患者に対する認識違いなどが挙げられるが、ときに、重大な医療事故に至る。様々な病院で対策が講じられているが「0」にはならない現状がある。医療安全管理を行う立場から、各病院の誤認防止の取組みについて情報共有を行い、誤認防止対策について議論を深めたい。

座長: 大澤 智美 (京都府立医科大学附属病院 医療安全管理部)

- 1) 当院における患者誤認の現状と取り組み
山本 崇 (京都大学医学部附属病院 医療安全管理室)
- 2) 当院における患者誤認の現状と対策
川原 初恵 (前 京都民医連中央病院 安全管理者)
- 3) 当院における患者誤認の現状と取組み—ミルク誤投与防止対策—
田中 真紀 (京都府立医科大学附属病院 医療安全管理部)

ディスカッション

(第6会場) 2019年2月9日(土)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP01 : 9:00-9:50 医療機器(1) (一般演題・口演)

座長: 鈴木 聡 (神奈川工科大学 工学部臨床工学科)

ME 機器研修をより効果的に行うために～院内認定制度の導入～

河原俊介 赤間創造 林直輝 野田修司 (社会医療法人同仁会 耳原総合病院 臨床工学科)

生体情報モニタ適正使用のための学習支援システムの提案

三輪 直毅、金平 蓮

木沢記念病院 臨床工学課、

藤田医科大学大学院 保健学研究科、藤田医科大学 医療科学部

三輪直毅 (木沢記念病院・臨床工学課、藤田保健衛生大学大学院・保健学研究科)

生体情報モニタの時刻調査から見えた課題

福澤 祐貴、児島 徹、川崎 淳一、渡邊 尚、岩谷 理恵子、平塚 明倫 (東京慈恵会医科大学附属病院、臨床工学部)

SpO2 モニタリングに対するエスカレーション機能導入の評価

峯尾千恵 高橋佐枝子 (湘南鎌倉総合病院)

PMDA を通じて多用途血液処理用血液回路の変更に至った経験

塚本 伶央奈 川上 千晶 山田 文哉 (愛媛大学医学部附属病院 ME 機器センター)

センサーを用いたトイレにおける急変早期発見の試み ～看護師のヒアリング調査踏まえて～

河野 由江 (獨協医科大学病院 医療安全推進センター)

**(第6会場) 2019年2月9日(土)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂**

NP02 : 10:00-10:50 医療機器(2) (一般演題・口演)

座長: 田仲 浩平 (東京工科大学・医療保健学部・臨床工学科)

超音波検査での医療過誤防止(プロトコールアシスタント)機能の有用性

小宮山 恭弘 (森ノ宮医療大学 臨床検査学科)

医療機器安全研修会終了後の行動変容の調査

堀川麻衣子、伊藤裕太、原田学、川崎淳一、岩谷理恵子、平塚明倫
(東京慈恵会医科大学附属病院 臨床工学部)

臨床工学技士による手術室器材適正運用への取り組み

森光 祐輔 (新古賀病院 臨床工学課)

近畿大学医学部附属病院における鎮静下内視鏡ライセンスプログラム導入について(1)

吉田和恵 1), 柳江正嗣 1), 西川三恵子 1), 冬田昌樹 2), 大田典之 2),
中尾慎一 2), 辰巳陽一 1)
1) 近畿大学医学部附属病院安全管理部, 2) 近畿大学医学部附属病院麻酔科

近畿大学医学部附属病院における鎮静下内視鏡ライセンスプログラム導入について(2)

冬田昌樹 1), 吉田和恵 2), 柳江正嗣 2), 西川三恵子 2), 大田典之 1),
中尾慎一 1), 辰巳陽一 2)
1) 近畿大学医学部附属病院安全管理部, 2) 近畿大学医学部附属病院麻酔科

**(第6会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂**

NP03 : 11:00-11:50 教育・確認行動 (一般演題・口演)

座長: 三上 久美子 (横浜市立みなと赤十字病院 看護副部長 医療安全推進課課長)

3年課程A看護専門学校におけるシミュレーションを活用した体系的な医療安全教育

中尾 裕子 (甲賀看護専門学校・教務)

確認が【意味のある確認】となるための取り組み

松田晋也(1) 田中郁子(2) 佐久間あゆみ(2)

(東京都済生会向島病院 医療安全管理室(1) 看護部(2))

IV ナースによる安全な静脈注射を実施するための課題

- 静脈注射に関するインシデント・アクシデント報告の分析から -

富田 和代 (久美愛厚生病院・医療安全管理室)

誤認防止ツール 8R 一目薬量方名 Day 指呼ー

長沼達史、谷真澄 (済生会松阪総合病院: 医療安全管理室)

採血室における事象発生後対応管理(PARM)への取り組み

宮崎直子 1) 田中克昌 1) 西風亮子 1) 北川亘 2) 伊藤公一 3)

(伊藤病院 1)診療技術部 臨床検査室 2)診療技術部, 外科 3)外科)

石川県歯科医療従事者の感染・患者急変に対する意識調査

高木純一郎 (石川県立中央病院歯科口腔外科)

(第6会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP04 : 13:00-13:50 コミュニケーション (一般演題・口演)

座長: 西隈 菜穂子 (近畿大学医学部附属病院患者支援センターセンター長)

患者カンファレンスでの GRM としての取り組み

池田 知栄子 (熊本大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)

リスクコミュニケーションの理論と実践

加藤 直樹 (防衛省防衛大学校 先端学術推進機構 防衛学教育学群 教授)

外国人との協働で作る医療安全

松永 厚美、佐野万博、黒田恭司 (医療法人徳松会 松永病院)

医療メデイエーションによる医療事故当事者の患者と医療者の支援ー心理士の視点からー

平井 理心 (筑波大学附属病院)

**(第6会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂**

NP05 : 14:00-14:50 災害・急変対応 (一般演題・口演)

座長: 廣井 透雄 (国立国際医療センター病院 副院長)

当院における突然の停電を経験して～臨床工学技士の関わり～

新家和樹、天野陽一、間中泰弘、水谷瞳、今井大輔、生嶋政信、山之内康浩、竹内文菜、
深海矢真斗、伊藤達也、神谷明里、今井果歩、藤井充希
(医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科)

防ぎ得る死「0」を目指す持続可能な質改善の取り組み

児玉 京子 (聖マリアンナ医科大学病院 救命救急・熱傷センター)

A がん専門病院に従事する全職員の院内急変に関する認識と院内教育の課題

佐々木重徳、菱沼里美、菊地義弘 (宮城県立がんセンター)

人工心肺管理中における災害時アクションカード作成の取り組み

伊藤裕太、平木将、高橋光太、川尻将守、茂山学、遠藤友哉、佐々木雄一、川崎淳一、
岩谷理恵子、平塚明倫 (東京慈恵会医科大学附属病院 臨床工学部)

北海道胆振東部地震に際した災害時透析医療の経験

山下 正剛、橋本 庸介、能登 優弥、鈴木 秀和、豊山 貴之、遠藤 陶子、橋本 史生
(医療法人社団 H・N・メディック)

(第6会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP06 : 15:00-15:40 安全管理(一般演題・口演)

座長: 手塚 則明 (東北医科薬科大学病院 医療安全部)

WHO手術安全チェックリストを用いた看護師・麻酔科医・執刀医の患者安全に対する意識の比較調査
佐々木 則子 (JCHO仙台病院 手術室)

当院における中心静脈カテーテル(CVC)挿入チェックシートの導入
嵐 大輔 (大阪市立総合医療センター 医療安全管理部 麻酔科)

「医療安全文化調査」を実施して～2018年度と2016年度の比較～
河瀬 留美 (西淀病院 医療安全管理室)

具体的な共通目標設定による医療安全推進活動の支援
北條文美、海渡 健、廣瀬 俊昭、瀧浪 將典、三森 教雄、佐藤 恵、
田久保 好慶、楠本 靖幸、谷 諭
(東京慈恵会医科大学附属病院・医療安全管理部門・医療安全推進部)

(第6会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP07 : 16:00-16:50 チーム医療(一般演題・口演)

座長: 海渡 健 (東京慈恵会医科大学付属病院医療安全管理部)

ファシリテーター型リーダーシップを意識した医療安全活動

齋藤 伸子 (地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院 医療安全室)

TeamSTEPPS の状況モニタリングを活用した Safety-II 活動の取り組み

平木将、遠藤友哉、石川尚生、根本和征、川崎淳一、岩谷理恵子、平塚明倫、海渡健
(東京慈恵会医科大学付属病院 臨床工学部)

医療安全向上のための TeamSTEPPS 推進活動

上中香代子 (産業医科大学病院 看護部)

チーム STEPPS アドバンスコースの開催への取り組み

佐伯公亮 (彦根市立病院医療安全推進室)

TeamSTEPPS の現場導入・定着への取り組み

西川三恵子、柳江正嗣、吉田和恵、辰巳陽一
(近畿大学医学部附属病院 安全管理部 医療安全対策室)

石川県立中央病院での Team STEPPS 講義アンケート集計

高木純一郎 (石川県立中央病院・歯科口腔外科)

(第6会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP08 : 17:00-17:50 画像・病理(一般演題・口演)

座長: 永山 正雄 (国際医療福祉大学大学院医学研究科神経内科学、国際医療福祉大学熱海病院)

画像・病理診断所見確認システムの導入

近本 亮 熊本大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

組織診・細胞診結果の未開封チェックシステム導入検証

藤野 幸恵 佐藤耕一郎 岩手県立磐井病院 臨床検査技術科

画像診断・病理診断報告書未確認対策としての医療安全推進室事務員による第三者チェックの現状

楠本 靖幸 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部 医療安全推進室

当院における画像診断報告書未確認・非共有事例の概要と対策

海渡 健 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門

当院におけるCT MRI 画像診断報告書確認に対する運用手順(パニックアラート運用手順)について

高橋 由佳1) 瓦本 尚平2) 三木 典子3) 太子 裕貴1) 柿木 範子1)

寺尾 秀一1)

地方独立行政法人 加古川市民病院機構加古川中央市民病院

医療安全管理部 医療安全推進室1) 企画情報部2) 医療業務部3)

(第7会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
東京大学山上会館 2 階国際会議場

PN13 : パネルディスカッション

9:00-10:30 テーマ: 「医療安全」の切り札である「患者参加型医療」とは何か

コーディネーター 勝村 久司 (医療安全学会理事)

- ・ 群大病院が改革のために進める「患者参加型医療」の意味と意義
勝村 久司 (群大病院 医療事故調査委員会委員)
- ・ 医療事故の体験から医療者に伝えたい「患者参加」の重要性
川田 綾子 (医療の良心を守る会 事務局長)
- ・ 患者側弁護士が気付く「医療安全のための患者参加」の重要性
木下 正一郎 (医療問題弁護団 弁護士)

ディスカッション

PN14 : パネルディスカッション

10:30-12:00 テーマ: これで良いのか「医療事故調査制度」～課題と提言～

コーディネーター 木下 正一郎 (医療安全学会代議員)

- ・ 医療事故調査制度開始からの3年間の総括と課題
木下 正一郎 (医療版事故調推進フォーラム事務局長 弁護士)
- ・ センター調査に至った二件の遺族を支援してわかったこと
勝村 久司 (産科医療補償制度 再発防止委員会委員)
- ・ 医療事故調査制度の健全化のために必要な改革
宮脇 正和 (医療過誤原告の会 会長)

ディスカッション

(第7会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学山上会館2階国際会議場

EL06 : 教育講演

13:00-13:50 テーマ : 地域医療における医療事故への救急救命の新たな取り組み

座長 : 水本 一弘 (和歌山県立医科大学附属病院 医療安全推進部・麻酔科)

演者 : 森村 尚登 (東京大学大学院医学系研究科 救急科学 教授)

SN01 : シンポジウム

14:00-15:30 テーマ : 今後の政策動向—医師の働き方改革と医療事故調査制度

(概要) 元厚生労働大臣の田村憲久衆議院議員と元厚生労働副大臣の橋本岳衆議院議員を中心に、医師の働き方改革と医療事故調査制度を巡る今後の政策動向を議論する。

座長 : 井上 清成 (井上法律事務所)

パネリスト

田村 憲久 (衆議院議員、元厚生労働大臣、日本医療安全学会政治顧問)

橋本 岳 (衆議院議員、元厚生労働副大臣、日本医療安全学会政治顧問)

井上 清成 (弁護士、日本医療安全学会理事)

ディスカッション

(第7会場) 2019年2月9日(土)午後
東京大学山上会館2階国際会議場

PN15 : パネルディスカッション

15:40-17:30 テーマ:医療安全対策地域連携加算は何をもたらしたか?

座長: 生島 五郎 (松戸市立総合医療センター 薬局長)

- ・医療安全対策地域連携加算の総論

生島 五郎 (松戸市立総合医療センター 薬局 薬局長)

- ・看護師の立場から

新村 美佐香 (医療法人五星会菊名記念病院 医療安全管理室 室長)

- ・薬剤師の立場から

金田 昌之 (医療法人五星会菊名記念病院 薬剤部 薬局長)

ディスカッション

(第8会場) 2019年2月9日(土)午前
工学部2号館1階213番講堂

PN16 : パネルディスカッション

9:20-10:50 テーマ: 生活にねざした科学技術の発展と医療安全:呼吸・循環管理を中心に

(概要) IoT技術の発展により、コンピュータで制御される自動計測装置や生命維持装置が多用されていく。ベッドサイドでは、目視できない情報の流れが行きかう。これからの社会において医療安全を推進するためには、医療従事者の客観性と主観性を活かしたきめ細かな視点がより一層求められる。特に、生命徴候に関する的確な観察力と判断力が重要となる。

本パネルでは、患者の生活支援の基盤となる呼吸・循環管理を中心にバイタルサインズの基礎を振り返る。今日、循環状態の把握には計測機器の理解が不可欠である。計測機器を活用したバイタルサインズのとらえ方や、心臓リハビリテーションの場面でのADL拡大に向けた心身の支援について理解を深める。次に、居宅での呼吸管理の特徴から、患者が安心して暮らしていくための支援を考える。居宅での呼吸管理の課題を知ることは、施設と地域の連携についても見えてくるであろう。また、生活に根ざした医療安全を推進するために、人と機械の特徴を再考する。療養の場の科学技術が進むなかでも、生命徴候を観る目が患者の安全を守る。

本パネルは、看護と理学療法の連携により、患者安全と患者のQOL向上への相乗効果を生み出す。医療安全を推進するために、呼吸や循環という生命徴候に焦点をあて、臨床と教育での課題と解決策を共有する。

座長: 藤井 千枝子 (慶應義塾大学看護医療学部・健康マネジメント研究科 教授)

1) 呼吸・循環管理とADL拡大

千葉 一幸 (あやせ循環器リハビリ病院 理学療法士)

2) 訪問看護における呼吸管理と居宅でのQOL向上

安藤 正子 (みなみ東京訪問看護ステーション 所長)

3) 人と機械の特徴をふまえた観察力の育成に向けて

藤井 千枝子

ディスカッション

SL16 : 特別講演

11:00-12:00 テーマ: 在宅医療での医薬品の安全な使用

座長: 生島 五郎 (松戸市立総合医療センター 薬局)

演者: 百 賢二 (東京大学医科学研究所附属病院薬剤部)

(第8会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
工学部 2 号館 1 階 213 番講堂

PL02 : 会長講演

13:00-13:40 テーマ: 地域医療での医療安全への取り組みの重要性

演者: 衣川 さえ子 (東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部)

EL07 : 教育講演

13:50-14:30 テーマ: 医療安全の地域連携に関する日本看護協会の取り組み

座長: 衣川 さえ子 (東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部)

演者: 熊谷 雅美 (公益社団法人日本看護協会 常任理事)

EL08 : 教育講演

14:40-15:20 テーマ: 人工知能による介護での IBM のヘルスケア

座長: 廣幸 英子 (神戸大学医学部附属病院・看護部)

演者: 中川 茂 (日本アイ・ビー・エム株式会社研究開発ヘルスケア担当シニア技術者)

(第8会場) 2019年2月9日(土)午後
工学部2号館1階213番講堂

PN17 : パネルディスカッション

15:30-16:50 テーマ : 在宅療養生活における医療安全の現状と課題

座長 : 梅津 靖江 (帝京科学大学医療科学部看護学科)

- 1) 鳥取県内の医療的ケア児を療育する家族側からの医療安全の現状と課題
菊原 美緒 (防衛医科大学校)
- 2) 鳥取県内の訪問看護における医療安全の現状と課題
鈴木 妙 (鳥取県看護協会 在宅支援部部長、鳥取県訪問看護支援センター所長)
- 3) 日本国内の訪問看護における医療事故とリスクマネジメントの現状と医療安全に関する教育ニーズ
梅津 靖江 (帝京科学大学)

ディスカッション

NP09 : 17:00-17:30 社会検証薬学 (一般演題・口演)

座長 : 奥貞 智

社会検証薬学 (9)

林 一雄 有限会社 ビー・イー・エス・ティー

CJD 患者血液で汚染された医薬品の動向

林 一雄 同上

医薬品の安全性を確保し、医療の信認を高める為の情報公開の必要性

林 一雄 同上

(第8会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
工学部 2 号館 1 階 213 番講堂

NP10 : 17:40-18:00 マネージメント (一般演題・口演)

座長: 辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)

組織マネジメントにおけるコミュニケーション・スキル強化の新たな手法

北野 達也 星城大学 経営学部 健康マネジメント系
医療マネジメントコース専攻長
星城大学大学院 健康支援学研究科 医療安全管理学 教授

KIT-Game を用いた Non-Technical Skills 強化の新たな手法

北野 達也 同上

(第9会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午前
医学部 2 号館安全 3 階大講堂

(WS02) 9:30-12:00

テーマ: 医療機器の安全な使用を多職種で語り合う交流会

目的: 臨床工学士が日ごろ抱えている医療機器の安全な使用上の問題をフロアーから話題提起いただき、多職種も含めて問題の解決策を討議し、語り合うネットワークを作しましょう。

対象者: 医療機器安全管理者、臨床工学士

コーディネーター 石井 宣大 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター臨床工学部)
青木 郁香 (公財)医療機器センター 医療機器産業研究所

指定コメンテーター:

医師: 三森 教雄 (東京慈恵会医科大学附属病院消化器外科教授、医療安全管理部)
大徳 和之 (弘前大学胸部心臓血管外科学診療教授、医療安全推進室室長)
松岡 浩司 (東京都健康長寿医療センター脳神経外科、医療安全管理者)
看護師: 土屋 和子 (久里浜クリニック看護科長)

(第9会場) 2019 年 2 月 9 日(土)午後
医学部 2 号館安全 3 階大講堂

(WS03) 15:00-17:30

テーマ: 看護の安全を多職種で語り合う交流会

目的: 看護師が日ごろ抱えている看護安全上の問題をフロアーから話題提起いただき、多職種も含めて問題の解決策を討議し、語り合うネットワークを作しましょう。

対象者: 看護師

コーディネーター 新村 美佐香

(菊名記念病院医療安全管理室室長、横浜メディカルグループ医療安全推進部部長)

三上 久美子 (横浜市立みなと赤十字病院 看護副部長 医療安全推進課課長)

指定コメンテーター:

| | |
|--------|---------------------------------|
| 医師: | 辻本 広紀 (防衛医科大学上部消化器外科学教授) |
| | 野村 史郎 (名古屋第一赤十字病院副院長) |
| 薬剤師: | 楠本 茂雅 (ベルランド総合病院クオリティ管理センター 部長) |
| | 末吉 宏成 (北九州市立八幡病院薬剤課) |
| | 足立 美千子 (熱田リハビリテーション病院 薬剤科) |
| 臨床工学士: | 石井 宣大 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター臨床工学部) |
| | 青木 郁香 (公財)医療機器センター 医療機器産業研究所 |
| | 真下 泰 (JCHO 札幌北辰病院・ME 部) |

(ポスター会場) 2019年2月9日(土)
東京大学山上会館2階ロビー

【PP1 : 安全教育】

掲示 10:00-17:40

討論 15:50-16:45

座長: 長島 久 (富山大学附属病院医療安全管理室)

PP1-1 多職種への自己血糖測定器新規導入時研修の開催の試み

草野 利恵 ims グループ高島平中央総合病院 臨床工学科

PP1-2 A病院における TeamSTEPPS®導入の評価

松村 恵子 東京都立大塚病院 リスクマネジメント看護分科会

PP1-3 新入生の終末期医療における自己決定権の意識の検討

笹森千愛 帝京大学医学部

PP1-4 医療安全文化醸成への検討

鈴木晶子 1) 小池信代 2) 高田亮子 3) 東京工科大学医療保健学部 1)

医療法人社団青虎会フジ虎ノ門整形外科病院看護部 2) 富山福祉短期大学看護学科 3)

PP1-5 リンクナース育成のための役割行動強化の取り組み

山井美樹・梅江のぞみ

横浜旭中央総合病院 看護部

PP1-6 安全性と質の高いチーム医療を目指す Team STEPPS を用いた医療安全推進活動の報告

○松村典子 安達真美 永島知子 横田小夜子 花房優美恵 大竈良子

東京都立大塚病院 リスクマネジメント看護分科会

PP1-7 集中治療室における医療者間のコミュニケーション: リハビリテーションでの経験

徳平夏子 京都第一赤十字病院

PP1-8 患者確認方法の実態調査

石堂 正枝 東京都健康長寿医療センター

PP1-9 (仮)「スポーツ フットサルの持つチームの価値をチーム医療へ」

池上 吾郎 チーム医療研究会「fotbarion」

PP1-10 情報共有を目的とした TeamSTEPPS ツールの取り組み

三浦潤弥、竹田草太、平野里紗、藤原貴大、林恭平、勝田岳彦、宇野光晴、涌井好二、奥田晃久、

石井宣大 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 臨床工学科

PP1-11 中心静脈カテーテル挿入手技のチェックリストの作成

吉田拓哉 長崎大学病院 腫瘍外科

(ポスター会場) 2019年2月9日(土)
東京大学山上会館2階ロビー

【PP2 : 転倒・転落】

掲示 10:00-17:40

討論 16:45-17:40

座長: 長島 久 (富山大学附属病院医療安全管理室)

PP2-1 自宅環境の危険予知トレーニングを用いた退院指導による家族の転倒リスクの認識の変化

中藪 彩 国立病院機構神戸医療センター

PP2-2 転倒アセスメントシートの信頼性・妥当性の検証～予測精度について統計学的に検証する～

乗富 里美 地方独立行政法人 筑後市立病院 HCU 病棟

PP2-3 全職員対象に複数回開催した睡眠薬関連の医療安全研修会が転倒・転落に及ぼす影響について

西村英尚 1, 2, 川路明子 1, 丹羽伊紀詠 1, 岡田直樹 2, 新美奈津江 2, 山本ひとみ 2,

下條 隆 2, 村瀬全彦 2

羽島市民病院・薬剤部 1, 医療安全推進室 2

PP2-4 従来からの睡眠薬処方の変更が夜勤帯看護業務に及ぼす影響について

西村英尚 1, 2, 岡田直樹 2, 新美奈津江 2, 山本ひとみ 2, 下條 隆 2, 村瀬全彦 2

羽島市民病院・薬剤部 1, 医療安全推進室 2

PP2-5 A病棟における「離床 CATCH®」を選択する看護師のアセスメントの現状

○松江郁美 小原厚子 音頭英美 古野ひろこ 有松弘美 田中愛

大阪市立総合医療センター 看護部

PP2-6 地域に根差す医療安全ネットワーク

梅川糸子 社会医療法人財団 池友会 新小文字病院

PP2-7 当施設における転倒リスクの検討

北野郁美、有村健、向吉登貴恵、中馬育子、和田清隆、荻野尚

メディボリス国際陽子線治療センター

PP2-8 パーソンアプローチとシステムアプローチによる転倒転落防止対策

児玉 和代、上舞 さおり 鹿児島市立病院 医療安全管理室

PP2-9 院内転倒患者における転倒危険度評価と転倒原因

○井上 歩美 1)、小久保 安朗 2)、寺崎 和代 1)、宇野 美雪 1)、稲井 邦博 1)、

北浜 紀美子 1)、秋野 裕信 1)

1) 福井大学医学部附属病院 医療安全管理部、2) 福井大学医学部 整形外科

PP2-10 回復期リハビリテーション病棟における転倒転落の現状～抑制の必要性和効果の再検討～

樋口 明里 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

プログラム 2月10日(日)

(第1会場) 2019年2月10日(日)午前
東京大学法文1号館25番講堂

SL17: 特別講演

9:00-10:20 テーマ: 医療における心理的安全性の重要性とその背景

演者: 辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)

SN02: シンポジウム

10:30-12:00 テーマ: 地域でつながる医療安全に向けて

座長: 橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長、院長補佐)

1. 神奈川県における医療安全ネットワークの現状

医療法人五星会菊名記念病院 医療安全管理室・室長 新村 美佐香

2. 地域医療の質の向上に向けた山梨医療安全研究会の取り組み

一般社団法人山梨医療安全研究会・会長/健康科学大学看護学部准教授 小林 美雪

3. 患者の暮らしにつなぐオール薬剤師による入退院支援業務の展開

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長代行/神戸市立アイセンター病院薬剤長
室井 延之

ディスカッション

(第1会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館25番講堂

PL03: 会長講演

13:00-13:50 テーマ:医療安全の地域連携におけるITのあり方

岡田 有策 (慶應義塾大学理工学部管理工学科ヒューマンファクター研究室教授)

SN03: シンポジウム

14:00-16:30 テーマ:医療・介護・福祉の地域連携の作り方

座長: 辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)

座長: 橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院・院長補佐兼薬剤部長)

中核病院の立場から 辰巳 陽一 (近畿大学付属病院医療安全管理部教授)

在宅看護の立場から 田中 道子
(公益財団法人日本訪問看護財団あすか山訪問看護ステーション所長)

福祉の立場から「キーパーソンについて考えてみることの意義」
星 真哉 (医療法人陽明会 長寿包括ケアクリニック 院長)

病病連携と病療連携のあり方 遠藤 純男 (汐田総合病院 院長補佐 安全管理責任医師)

薬剤師の立場から 橋田 亨 (神戸市立医療センター中央市民病院・院長補佐兼薬剤部長)

ディスカッション

閉会 16:30-17:00

次期総会長挨拶

稲田 英一 日本麻酔科学会理事長、順天堂大学附属病院副院長、教授

秋野 裕信 福井大学医学部附属病院・医療安全管理部教授

新村 美佐香 横浜メディカルグループ医療安全推進部部長

第5回総会長挨拶 松村 由美、岡田 有策、衣川 さえ子

(第2会場) 2019年2月10日(日)午前
東京大学法文2号館2階31番講堂

SN04: シンポジウム

9:00-12:00 テーマ: 医療安全推進への提言

座長: 許 俊鋭 (東京都健康長寿医療センター センター長)

一人 25 分

医療安全の推進の現状と課題

許 俊鋭 (東京都健康長寿医療センター センター長)

医療機器の安全な使用の推進

佐和 貞治 (京都府立医科大学附属病院医療安全管理部部長、教授、副院長)

医療コーチングの観点からの医療安全の推進のあり方

出江 紳一 (東北大学大学院医学研究科肢体不自由学分野教授)

鏡視下手術における安全の観点から

梁 善光 (帝京大学ちば総合医療センター副院長 安全管理部長 産婦人科教授)

医療の事故防止と安全推進 -事故事件全体像からの検討-

大城 孟 (おおしろクリニック 理事長)

医療安全推進のためのリーダーシップのありかた

辰巳 陽一 (近畿大学医学部附属病院安全管理部教授)

ディスカッション

(第2会場) 2019 年 2 月 10 日(日) 午後
東京大学法文 2 号館 2 階 31 番講堂

SL18: 特別講演

13:00-13:50 テーマ: 医療現場における法的責任と紛争予防に向けて

演者: 大滝 恭弘 (帝京大学医療共通教育研究センター)

**(第2会場) 2019年2月10日(日) 午後
東京大学法文2号館2階31番講堂**

PN18: パネルディスカッション

14:00-15:30 テーマ: 医療安全から見た甲状腺・副甲状腺手術における術後出血

座長: 福成 信博 (昭和大学横浜市北部病院 外科教授)

- 1) オーバービュー: 甲状腺・副甲状腺手術における術後出血 ～医療安全調査機構警鐘事例から～
福島光浩、中野賢英、坂上聡志、西川 徹、相田貞継、福成信博 (昭和大学横浜市北部病院 外科系診療センター 外科)
- 2) 甲状腺手術後合併症の早期発見・早期対応とチーム体制整備について
佐々木仁美 (昭和大学横浜市北部病院 看護部)、
中野賢英、坂上聡志、西川 徹、相田貞継、福島光浩、福成信博 (昭和大学横浜市北部病院外科系診療センター 外科)
- 3) 当院における「頸部手術に伴う管理ガイドライン」の運用状況
庄川 久美子 (鳥取大学医学部附属病院 看護部)
福原隆宏、竹内裕美 (鳥取大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
- 4) 甲状腺外科治療における医療安全 ～甲状腺・副甲状腺手術の後出血に対する管理と対応について～
北川亘、杉野公則、長濱充二、伊藤公一 (伊藤病院 外科)
二階堂名奈、天野ますみ、大島由美、石澤 緑 (伊藤病院 看護部)
- 5) 甲状腺・副甲状腺手術における退院後に術後出血を発症した症例の検討
新田早苗 (隈病院 看護本部)
福島光浩、山本正利、舛岡裕雄、東山卓也、木原 実、宮 章博、宮内 昭 (隈病院 外科)
木村 操 (隈病院 外来看護科)
金村信明、佐野 奨、手島直則 (隈病院 頭頸部外科)

ディスカッション

SL19: 特別講演

15:40-16:10 テーマ: 甲状腺・内分泌専門病院における地域連携への取り組み

座長: 福成信博 (昭和大学横浜市北部病院 外科教授)

演者: 瀬戸 佳世 (野口記念会 野口病院)

(第3会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午前
東京大学法文1号館1階21番講堂

SL20: 特別講演

9:00-9:40 テーマ: 医療事故における医療機関の敗訴の特徴について

演者: 井上 清成 (井上法律事務所)

SL21: 特別講演

9:40-10:20 テーマ: 医療事故裁判の一般的な進行方法について

演者: 井上 清成 (井上法律事務所)

SL22: 特別講演

10:30-11:10 テーマ: 臨床研究における患者安全管理のポイント

演者: 水本 一弘 (和歌山県立医科大学医療安全推進部部長)

EL09: 教育講演

11:10-12:00 テーマ: 院内死亡例の死因調査における重要なポイント — 法医学的視点から

演者: 藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部法医学教授)

(第3会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午後
東京大学法文1号館1階21番講堂

SL23: 特別講演

13:00-13:50 テーマ:医療安全のための高信頼性組織構築のポイント

演者:海渡 健(東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門教授)

SL24: 特別講演

14:00-14:40 テーマ:重大事故に際しての危機管理の大原則

演者:加藤 直樹(防衛省防衛大学校 先端学術推進機構 防衛学教育学群 教授)

(第3会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館1階21番講堂

PN19: パネルディスカッション

14:50-16:30 テーマ: 医療現場における多様な安全への取り組み

(目的) 多様な医療現場においては、医療安全への対応もまた多様である。急性期、慢性期、地域性、職種、病院の規模など様々なことが絡み合っている医療現場では、その状況に応じた医療安全対策を行っている。

今回は、1つ目は転倒転落予防策に焦点をあてた各病院での取り組みの実態と病院の特徴に応じた対応策や職種別の対応について考えてみたい。2つ目は、急性期の手術を受ける患者の術後せん妄予防への取り組みの実際と今後の活用を提示したいと考えている。3つ目は、各病院から専任の医療安全管理者が集まり活動している中で、各病院の与薬に関するインシデント報告の実際を検討し、各病院の報告レベルの違いがあることに着目し、詳細な判定フローを作成することで、インシデント報告判定レベルを一致させていく取り組みを行ったことについて報告する。インシデント報告の各病院での活用を考えたい。

以上のように全く異なる視点から、医療現場における医療安全の取り組みを皆様と一緒に考え、状況に応じた医療安全への対応を模索したいと思う。医療安全への取り組みは、医療現場の多様性への取り組みでもあると思う。今回の発表を機会として、皆様の医療安全に関する日頃の取り組みへの思いを互いに討論し、医療現場に生かせるヒントを見出していいただきたい。

座長: 木下 美佐子 (福島県立医科大学 看護学部)

1) 転倒転落予防に向けた各病院の取り組み

木下 美佐子 (福島県立医科大学 看護学部)

2) 事前学習による術後せん妄予防対策の効果

阿部 夏樹 (福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座)

3) レベル判定基準フローを用いた与薬インシデント評価

酒井 仁子、中村 みゆき (東北 GRM 研究会)

ディスカッション

(第4会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午前

東京大学法文1号館1階22番講堂

SL25: 特別講演

9:00-9:30 テーマ: 当院における医療安全推進部の進め方のポイント

演者: 山本 宗孝 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 医療安全管理室 副室長)

SL26: 特別講演

9:40-10:20 テーマ: 医薬品副作用マネジメント ～院内で上手に協働するポイント～

演者: 橋田 亨(神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部長、院長補佐)

PN20: パネルディスカッション

10:30-12:00 テーマ: 高齢者の安全な薬物療法の推進を目的としたポリファーマシーの問題と対策

座長: 百 賢二 (東京大学医科学研究所附属病院薬剤部)

東京都近郊のポリファーマシーの実態調査

百 賢二 (東京大学医科学研究所附属病院薬剤部: 代議員)

医療安全に寄与する病棟薬剤業務ー東京都近郊のポリファーマシーの実態調査 サブ解析ー

安 武夫 (東京大学医科学研究所附属病院薬剤部 副薬剤部長)

高齢者に対する薬物療法における安全性への取り組み

林 太祐 (日本医科大学付属病院薬剤部 係長)

ディスカッション

(第4会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午後

東京大学法文1号館1階22番講堂

SN05: シンポジウム

13:00-15:30 テーマ:患者安全第一のための新しい戦略は何か

座長: 酒井亮二 (日本医療安全学会理事長)

一人 25 分

医療安全担当医師の立場から

松村 由美 (京大病院医療安全管理部部長、教授)

医療機器安全の立場から

田仲 浩平 (東京工科大学・医療保健学部・臨床工学科教授)

医薬品に関わる医療事故の現状と課題: 患者安全第一に向けて

清野 敏一 (平成帝京大学教授)

看護の立場から

藤井 千枝子 (慶應義塾大学看護学)

患者・家族の立場から

勝村 久司 (患者の視点で医療安全を考える連絡協議会 世話人)

患者安全第一に関する海外の動向

酒井 亮二 (国際医療リスクマネジメント学会理事長/日本医療安全学会理事長)

ディスカッション

(第4会場) 2019年2月10日(日)午後

東京大学法文1号館1階22番講堂

PN21: パネルディスカッション

15:40-16:30 テーマ: リスク管理と危機管理 Update

座長: 永山 正雄 (国際医療福祉大学大学院医学研究科神経内科学 教授)
奥寺 敬 (富山大学大学院危機管理医学・医療安全学 教授)

基調講演 リスク管理と危機管理: 事象発生後対応管理 (PARM) 教育・研修
永山 正雄 国際医療福祉大学大学院医学研究科神経内科学

演題1 事象発生後対応管理 (PARM) 教育における事象発生後対応管理評価シート改訂
横山 直司¹, 永山 正雄², 植田 希¹, 石井 淳一郎³, 柳 辰哉⁴, 佐藤 哲夫⁵
1) 国際医療福祉大学熱海病院看護部 2) 神経内科 3) 泌尿器科 4) 事務部
5) 呼吸器内科

演題2 事象発生後対応管理 (PARM) を用いた院内急変に対する危機管理教育の実践
鈴木 佳世子¹ 星山 栄成^{2,3}, 河野 由江¹, 平田 幸一², 窪田 敬一^{1,4}
1) 獨協医科大学病院医療安全推進センター 2) 獨協医科大学神経内科
3) 獨協医科大学病院救命救急センター 4) 獨協医科大学第二外科

演題3 事故発生時のコミュニケーション
長島 久 富山大学大学院臨床リスクマネジメント学・同附属病院医療安全管理室

ディスカッション

(第5会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午前

東京大学法文1号館3階26番講堂

SL27: 特別講演

9:00-9:40 テーマ: 患者相談におけるポイント

演者: 西隈 菜穂子 (近畿大学付属病院患者相談センター センター長)

WS01: ワークショップ

9:50-12:00 テーマ: 医療安全管理者・対話推進者集まれ!
悩みを共有し、医療安全活動の改善につなげよう!

コーディネーター: 松村 由美 (京大病院医療安全管理部教授)

(定員: 50 名)

※ 当日先着順にて定員に達したら締め切ります

(第5会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館3階26番講堂

NP11: 13:00-13:50 薬剤(1)(一般演題・口演)

座長: 生島 五郎 (松戸市立総合医療センター 薬局長)

医療事故調査・支援センター提言後に経験したアナフィラキシー3事例の検討

石丸 新、原 美香、井上 寛、原田容治 戸田中央総合病院・医療の質・安全管理室

腸管洗浄剤が関与した腸閉塞・腸穿孔がおこり死亡した15事例の分析と死亡回避の検討

喜田 裕也 堺若葉会病院 内科

DLST(薬剤によるリンパ球刺激試験)検査事故事例における多職種連携システムの構築

柳江 正嗣 1)、西川 三恵子 1)、吉田 和恵 1)、森嶋 祥之 2)、辰巳 陽一 1)

1) 近畿大学医学部附属病院安全管理部、2) 近畿大学医学部附属病院薬剤部
2)

婦人科手術症例から考える周術期における経口避妊薬の医療安全

富永 英一郎 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室

予防接種における間違いの現状と課題

崎山 弘 医療法人社団崎山小児科

診療所における予防接種の間違い防止策

崎山 弘 医療法人社団崎山小児科

(第5会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午後

東京大学法文 1 号館 3 階 26 番講堂

NP12: 14:00-14:50 薬剤(2)(一般演題・口演)

座長: 河瀬 留美 (西淀病院 医療安全管理室)

遺伝子検査に関する薬局薬剤師の倫理教育の必要性に関して

池田 佳代 1)、細井 徹 1)、吉井 美智子 1)、杉山 政則 2)、小澤 光一郎 1)

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科 治療薬効学、

2) 同 未病・予防医学共同研究講座

医療従事者のための PSF 分析に基づいた作業手順改善支援と手順の実験的検証

小林尚人、平沼明史、岡田有策 慶應義塾大学理工学部

電子カルテ導入に伴う薬剤関連インシデント・アクシデント報告件数減少の分析

廣瀬 俊昭 東京慈恵会医科大学附属病院・医療安全管理部門

未承認新規医薬品等評価部と薬剤部との連携について

田中 守 愛媛大学医学部附属病院・薬剤部、未承認新規医薬品等評価部

製品開発、販売・製造中止による医薬品事故防止実現の可能性検討

～繰り返すカリウム急速静注事故、イオン性造影剤髄腔事故の再発防止をめざして～

喜田 裕也 堺若葉会病院 内科

(第5会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午後

東京大学法文 1 号館 3 階 26 番講堂

NP13: 15:00-15:50 医療事故(一般演題・口演)

座長: 梁 善光 (帝京大学ちば総合医療センター医療安全管理部)

医療事故調査報告の1事例

浅岡峰雄 大津妙子 村井宏通 岡崎市民病院

看護介護事故の裁判事例を題材とした院内医療安全研修を振り返る

田上鑛一郎、吉田昌弘、杉本明子 JA 愛知厚生連 渥美病院 医療安全管理室

周産期における訴訟リスクについての調査研究

五十嵐沙織 弁護士法人A I T 医療総合法律事務所

医師が関与した重大な誤投薬の検証

種井 隆文 小牧市民病院 脳神経外科

(第6会場) 2019年2月10日(日)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP14: 9:00-9:40 地域連携(1)(一般演題・口演)

座長: 鈴木 佳世子 (獨協医科大学病院医療安全推進センター)

地域における安全ネットワーク会の役割

北川 佳奈子 1)、 加賀絵里子 2)、 前田章子 3)、 今野真都佳 1)、
葛西佳代子 4)、 大塚央子 5)

1) 旭川医科大学病院 2) 旭川厚生病院 3) 旭川赤十字病院
4) 市立旭川病院 5) 国立病院機構旭川医療センター

当院における医療安全地域連携相互評価によってみえた現状と課題

菱沼 和子、青木 佳名子、松浦一登
宮城県立がんセンター 医療安全管理室

地域連携における医療機器安全使用への取り組み

川上千晶 塚本伶央奈 山田文哉 愛媛大学医学部附属病院 ME 機器センター

地域に発信する転倒予防

松永厚美、佐野万博、黒田恭司 医療法人徳松会 松永病院 医療安全管理部

(第6会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP15: 9:50-10:30 地域連携(2)(一般演題・口演)

座長: 高井 雄二郎 (東邦大学医療センター 大森病院)

在宅療養者の入退院に関わる病院看護師と訪問看護師のお互いの連携に対する 現状の認識
～シームレスなケアを目指して～

吉田 幸枝, 森田みゆき, 田貝尚美, 新井美保, 倉林花実, 衣川さえ子
富岡看護専門学校, 公立七日市病院在宅医療支援センター,
公立富岡総合病院, 公立富岡総合病院, 公立七日市病院,
東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

看護職と介護職の連携による在宅療養支援リスク管理ツールの開発

原口道子, 笠原康代, 中山優季, 松田千春, 板垣ゆみ, 小倉朗子
公財) 東京都医学総合研究所 難病ケア看護プロジェクト

医療安全とキーパーソンについての考察

星 真哉 医療法人陽明会 長寿包括ケアクリニック 院長

介護時に発症したと思われる大腿骨顆上骨折についての検討

中村英智 地方独立行政法人 筑後市立病院

(第6会場) 2019年2月10日(日)午前
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP16: 10:40-11:40 インシデント報告(一般演題・口演)

座長: 近本 亮 (熊本大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部)

インシデントインシデント報告増加への取り組み

伊藤 雅美 山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

インシデントレポート報告者の職種別性向と分析

住田 勝 近江八幡市立総合医療センター 医療安全管理室

看護学実習におけるインシデント発生予防の取り組み

伊藤 茂理 東邦大学佐倉看護専門学校

医師のインシデント報告に対する理解の促進への取り組み

南谷 美朱 竹中 幸男 服部 佳朗 杉山 保幸
岐阜市民病院 医療安全局医療安全推進部

オカレンス報告の導入による報告文化の醸成

南川哲寛 田村和也 徳光明子 足立悟 白倉啓子 岡田直美
京都岡本記念病院・医療安全管理室

手術室におけるインシデントの原因薬と発生要因 -大規模データベースを用いた研究-

鈴木亮平, 深津 哲, 今井常夫 独立行政法人 国立病院機構 東名古屋病院

**(第6会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂**

NP17: 13:00-14:00 転倒・転落 (1) (一般演題・口演)

座長: 川原 初恵 (京都保健会 京都民医連中央病院)

外来エスカレーター転倒事故のシミュレーション訓練を実施した成果

白井由美子 1), 山下雅代 1), 井上祥子 1) 1) 兵庫県立西宮病院 看護部

シャワー室での転倒骨折事案を受けての取り組み

田口由美子 熊本大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部

有害事象の経験から転倒・転落予防策を実施した取り組みについて

佐々木 仁美 昭和大学横浜市北部病院

患者の転倒転落に関わった医療者が考える事故発生要因の傾向: インシデント報告分析に基づいて

前田佳孝 1)、浅田義和 2)、鈴木義彦 1)、川平洋 1)、新保昌久 3)

1) 自治医科大学 メディカルシミュレーションセンター、

2) 自治医科大学 情報センター、3) 自治医科大学附属病院 医療の質向上・安全推進センタ

ー

アルツハイマー型認知症患者とレビー小体型認知症患者の転倒に関する要因分析

～時間帯・行動心理症状の視点から～

吉崎 広大 医療法人花咲会 かわさき記念病院 リハビリテーション科

阿波踊りで取り組む地域の転倒予防

松永厚美、佐野万博、黒田恭司 医療法人徳松会 松永病院

(第6会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP18: 14:10-15:00 転倒・転落 (2) (一般演題・口演)

座長: 堀田 まゆみ (東海大学医学部附属大磯病院看護部)

転倒転落に対する医療安全プロジェクト

栗原 慎太郎 長崎大学病院 安全管理部

当院における転倒転落防止対策ー予測型見守りシステムを導入してー

宮地 真希子

一般財団法人三宅医学研究所 附属三宅リハビリテーション病院 医療安全管理室

被害規模によるリスク評価とアセスメントシートの改善

野口祐一、新田正佳、岡田有策 慶應義塾大学理工学部

転倒転落のリスクアセスメントに関するプラットフォームの提案

新田正佳、岡田有策 慶應義塾大学大学院理工学研究科

転倒・転落予防に関する入院患者の教育資料の改良～経験を数値化し、よりよい実践へ～

北川寿子、菅原敏子、秋山直美、肥田圭介

岩手医科大学附属病院 看護部、岩手医科大学看護学部、岩手医科大学医療安全学講座

(第6会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学法文1号館3階27番講堂

NP19: 15:10-16:00 ヒューマンファクターズ(一般演題・口演)

座長: 鈴木 聡 (神奈川工科大学 工学部 臨床工学科)

多様なデータベースの連携に基づく 新たな医療安全サービスサイクルの提案

木村佳奈、山崎春奈、岡田有策 慶應義塾大学

医療安全を担う医療安全従事者のマネジメント特性に関する評価方法の検討

山崎春奈 木村佳奈 岡田有策 慶應義塾大学

術前中止薬管理アプリの開発

木村早希子 1, 4, 5、江本晶子 1, 4、祖川倫太郎 4、吉村麻里子 1, 5、 有水弘太 2、
水田貴久美 5、田竈康洋 5、夏秋政浩 1、梶原正貴 1、 鶴岡ななえ 1、薬師寺祐介 1、
檀上敦 1、谷川義則 1, 3、高松千洋 3, 5、 平川奈緒美 3、坂口嘉郎 1, 3、末岡榮三朗 1、
成澤寛 4、木村晋也 5
佐賀大学医学部附属病院 横断的止血・血栓診療班 1、臨床研究センター2、
麻酔科蘇生科 3、薬剤部 4、医療安全管理室 5

人工知能を活用した副作用症例報告書の試行的評価

潮田明1)、今任拓也2)、森谷純治3)、斎藤嘉朗2)、松永雄亮3)、
沼生智晴3)、見田活4)、阿川英之4)、関口遼4)
1) 国立研究開発法人産業技術総合研究所・人工知能研究センター、
2) 国立医薬品食品衛生研究所・医薬安全科学部
3) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構・安全第二部、
4) 同安全第一部/情報管理課

(第7会場) 2019年2月10日(日)午前

東京大学山上会館2階国際会議場

PN22: パネルディスカッション

9:00-10:20 テーマ:外国人診療の医療安全

(概要) 政府主導の訪日外国人増加策により、在留外国人や外国人旅行者の医療機関受診が増加している。本パネル討論会では、我々の経験した外国人症例を紹介し、医学的な問題、医療保険・未収金の問題、海外搬送の問題、法的・倫理的な問題の各側面からアプローチすることにより、外国人診療における医療安全とその対策について討論することを目的とする。

座長: 上里彰仁 (東京医科歯科大学医学部附属病院国際医療部・部長)

1) 外国患者における救急医療と医療安全

森下 幸治 (東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター)

2) 外国人医療の問題点・課題

二見 茜 (東京医科歯科大学医学部附属病院国際医療部)

3) 国際医療搬送

周 婉婷 (International SOS Japan)

4) 外国人医療における法的・倫理的問題

大磯 義一郎 (浜松医科大学)

ディスカッション

(第7会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午前
東京大学山上会館 2 階国際会議場

SL28: 特別講演

10:30-11:10 テーマ: 仮) 在宅からの持ち込み医療機器に関連するインシデント

(概要) 在宅医療の推進から、多くの在宅医療機器が使用されている。一方、在宅医療機器の増加は、入院時に在宅医療機器の持ち込みによる新たなインシデントの要因となる。持ち込み医療機器によるインシデントの現状を明らかにして、今後の方向性を検討する。

座長: 石井 宣大 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター臨床工学部)

講師: 中山 優季 (公財)東京都医学総合研究所

SL29: 特別講演

11:20-12:00 テーマ: 仮) 病院設備から在宅までの安全管理と災害対策の実践

(概要) 病院の設備は、使えて当たり前である。しかし、故障や事故、災害による病院設備の停止は、病院機能と安全性を著しく低下させる。医療ガスや病院設備の安全管理から災害対策までの現状を明らかにして、医療安全管理者に必要な課題と具体策を報告する。

座長: 石井 宣大 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター臨床工学部)

講師: 笠井 健 (北良株式会社代表取締役社長)

(第7会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学山上会館2階国際会議場

SN06: シンポジウム

13:00-14:30 テーマ:地域に根ざした医療安全活動の推進
-医療者と行政と医療安全研究会の連携-

(概要) 本シンポジウムは、山梨県の医療の質の向上を目的として活動している医療者と行政職および医療安全研究会の連携した取り組みの報告である。

山梨県は人口約86万人、病院数60施設の小規模医療圏であり、多くの病院が病床数300床未満の中小規模施設である。そのため、大規模病院のように医療安全管理体制を整備する人的・財政的資源に恵まれていない施設が多い。このような状況にある県内病院の医療安全への取り組みは、国の第5次医療法改正による医療安全管理体制整備の義務化に連動した医療関連職能団体の医療安全推進の取り組みや行政の立入検査による安全管理体制の監視や医療事故事例の収集・公表、山梨医療安全研究会の活動、さらには病院相互の医療安全管理者の繋がり等により推進されている。小規模医療圏の特性を生かした連携と協働による取り組みを息長く継続してきたことにより、徐々にではあるが県内の医療安全文化の醸成が推進されているのではないかと自負している。

座長: 小林 美雪 (健康科学大学 看護学部)

- 1) 一社) 山梨医療安全研究会の地域医療の質の向上への取り組み
小林 美雪 (健康科学大学看護学部)
- 2) 地域に根差した医療安全活動の推進-医療安全管理者として地域連携に期待すること-
田之上 久美子 (国立病院機構甲府病院 医療安全管理室)
- 3) 地域のニーズを踏まえた卒前医療安全教育
鈴木 章司 (山梨大学大学院総合研究部医学教育センター,
山梨大学医学部附属病院学生臨床教育センター)
- 4) 医療安全に行政はどう貢献できるか-小規模自治体における地域との連携-
高津 太郎 (山梨県福祉保健部医務課医療指導・県立病院担当)

ディスカッション

(第7会場) 2019年2月10日(日)午後
東京大学山上会館2階国際会議場

PN23: パネルディスカッション

14:40-16:20 テーマ: 臨床工学技士不在施設における生命維持管理装置の安全管理
ー使用者が必要とする管理とは?ー

目的

医療機関における生命維持管理装置の安全管理について、とくに臨床工学技士が不在の施設を中心として、現状を明らかにするとともに、さらなる推進の方向性や具体策などについて議論する。

オルガナイザー

(公財)医療機器センター 医療機器産業研究所 青木 郁香

(福)恩賜財団済生会支部東京都済生会 東京都済生会向島病院 医療安全管理室 松田 晋也

パネリスト

1. 中小医療機関における医療機器管理の現状

医療機器センター 医療機器産業研究所 青木 郁香

2. 中小医療機関における医療機器の安全管理の実態 ー専従医療安全管理者の立場からー

東京都済生会向島病院 医療安全管理室 松田 晋也

3. 中小医療機関における看護師による医療機器の安全管理 ー専任医療安全管理者の立場からー

東京都リハビリテーション病院 看護部 兼 医療安全対策室 蟻田 富士子

4. 訪問看護ステーションにおける医療機器の安全管理の実際

オールケア24伊勢崎 管理者 井形 健太

5. 地域でつくりあげる医療機器の安全管理のための取り組み

国保小見川総合病院 臨床工学科 堀 和芳

ディスカッション

**(第8会場) 2019年2月10日(日)午前
工学部2号館1階213番講堂**

PN24: パネルディスカッション

9:00-10:20 テーマ:医療安全教育を担う看護教員と臨床看護師の教育実践力を高める連携を創造する

座長: 衣川 さえ子 (東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部)

- 1) 医療安全研修(施設内)の企画・運営における教育担当看護師の困難
東京医療保健大学東が丘・立川看護学部 岩本 郁子
- 2) 医療安全教育を担う臨床看護師の教育実践力を高める上でのニーズ
オフィス 竹中 竹中 泉
- 3) 教育実践力を高めるための“研鑽支援モデル”の提案
東京医療保健大学東が丘・立川看護学部 衣川 さえ子

ディスカッション

(第8会場) 2019年2月10日(日)午前
工学部2号館1階213番講堂

PN25: パネルディスカッション

10:30-12:00 テーマ: 地域連携における医療安全対策の推進
ー 看護師が持つべきコンピテシーとその育成

(概要) 我が国では、急速な少子高齢化、社会保障費の増大、生活習慣病や認知症の増加、高額技術の台頭など、医療環境が激変しており、限られた資源の中で安全で質の高い医療の実現が急務とされています。平成30年度診療報酬改定の基本方針では、Ⅰ. 地域包括ケアシステムの構築と医療機能分化・強化、連携の推進、Ⅱ. 新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実、Ⅲ. 医療従事者の負担軽減働き方改革の推進、Ⅳ. 効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の強化が示され、医療現場に求められる対応が明らかとなりました。こうした変化は看護師に求める役割・機能にも影響を及ぼすものと言えます。

IOM(米国医学研究所)は、21世紀の医療を支える医療従事者の誰もがもつべき能力として5つ(患者中心の医療、チームワークと協働、EBP、質の改善、ITの活用)をあげました。看護領域では2005年、QSEN(看護師のための質と安全教育)チームが発足し、6つ目の能力として「安全」を加えました。こうした6つの能力に基づいた看護カリキュラム変革が全米で広がりを見せています。

今回のパネル討論会では、QSEN(米国における看護師のための質と安全教育)について報告します。また、チーム医療推進、病院組織の安全文化の醸成に向けた取り組みであるチーム STEPPS 研修の実際について報告します。さらに、看護学生対象の医療安全と感染看護学臨地実習について報告します。

今後、医療を取り囲む環境の変化の中でどのようにして医療の質と安全を保って行くのか。看護師の持つべきコンピテシーとその育成について活発な討論を展開したいと思います。

座長: 渡邊 八重子(亀田医療大学)

- 1) 看護師のための質と安全の教育(QSEN)
クローズ幸子 亀田医療大学 名誉教授
- 2) チーム医療の推進 全職員対象のチーム STEPPS 研修の実際
夏目隆史 亀田総合病院 メディカルディレクター
- 3) 看護学生対象の医療安全教育「医療安全と感染看護学臨地実習」
渡邊八重子 亀田医療大学 准教授

ディスカッション

(第8会場) 2019 年 2 月 10 日(日)午後
工学部 2 号館 1 階 213 番講堂

PN26: パネルディスカッション

13:00-14:30 テーマ:患者高齢化と看護安全

(概要) 2025 年問題が取り沙汰される中、医療機関においては患者高齢化に対する対応の検討を進めていく必要が出てきている。医療安全対策においても同様である。インシデント・アクシデント報告において、報告件数の上位を占める項目として、転倒・転落、チューブトラブルが上がるが、その多くは患者高齢化が大きく関与していると考えられる。薬剤管理においても、患者高齢化が影響していると思われる事例が増えていると感じる。これらの事例に多く関わるのは、最も患者に近いところで看護を提供している看護師である。今回患者高齢化を見据えた医療安全対策について、看護安全の視点から 3 つの施設の取り組みを報告させていただき、参加者の皆様と今後の課題について検討して行ければと考える。

座長: 新村 美佐香 (YMG 医療安全推進部部長、菊名記念病院 医療安全管理室室長)

1) 患者高齢化に伴う転倒・転落事例への対応について

三上 久美子 (横浜市立みなと赤十字病院 看護副部長 医療安全推進課課長)

2) 高齢者へ向けた看護安全の展開

大原 志歩 (済生会横浜市東部病院 TQM センター 医療安全管理室)

3) 高齢化する透析患者とその対応について

土屋 和子 (医療法人 眞仁会 久里浜クリニック 看護科長)

ディスカッション

(第8会場) 2019年2月10日(日)午後
工学部2号館1階213番講堂

PN27: パネルディスカッション

14:30-16:00 テーマ:看護師の役割拡大に伴う医療安全について考える
-診療看護師(NP)の活動と医療安全

(概要) 日本の医療現場で医療職の役割拡大が進むなか、看護師の役割拡大のひとつとして、2008年より診療看護師(NP: Nurse Practitioner)の養成が開始されました。診療看護師(NP)は、日本NP教育大学院協議会の認定試験に合格した者で、現在大学院で養成されています。診療看護師(NP)は、2014年に開始された「特定行為に係る看護師の研修制度」の研修内容も包含したカリキュラムで教育を受け、高度な専門知識を活用し総合的な判断により医療行為に踏み込んだ実践を行っています。実践にあたり最も重要なことは医療安全の視点です。

そこでこのパネルでは、まず医療チームにおいて新しい役割を担っている診療看護師(NP)の活動および医療安全の視点からの対応と課題を紹介し、看護師の役割拡大に伴い、どのようなセーフティーマネジメントの在り方が求められているのかについて活発な討論を展開したいと考えています。

座長: 岩本 郁子 (東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部)

- 1) 診療看護師(NP)の教育及び活動の概要
岩本 郁子
- 2) 急性期病院における診療看護師(NP)の役割と活動および医療安全上の課題
忠 雅之 (国立病院機構 東京医療センター)
- 3) 在宅医療における診療看護師(NP)の役割と活動および医療安全上の課題
田平 絵里 (ホームケアクリニック横浜港南)
- 4) 診療看護師(NP)が指向する医療安全
加藤 恵美 (地域医療振興協会練馬光が丘病院)

ディスカッション

**(第9会場) 2019年2月10日(日)午前
医学部2号館安全3階大講堂**

(WS04) 2019年2月10日(日) 9:30-12:00

テーマ: 医薬品の安全な使用を多職種で語り合う交流会

目的: 薬剤師が日ごろ抱えている医薬品の安全な使用上の問題をフロアーから話題提起いただき、多職種も含めて問題の解決策を討議し、語り合うネットワークを作しましょう。

対象者: 医薬品安全管理者、薬剤師

コーディネーター 河瀬 留美 (西淀病院 医療安全管理室)

指定コメンテーター:

| | | |
|------|--------|--------------------------------|
| 医師: | 河田 健司 | (藤田医科大学臨床腫瘍学教授) |
| | 遠藤 純男 | (汐田総合病院院長補佐、医療安全責任者) |
| | 小林 肇 | (東京フェリシアレディースクリニック院長、元ハーバード大学) |
| 薬剤師 | 田中 守 | (愛媛大学医学部附属病院・薬剤部) |
| 看護師: | 堀田 まゆみ | (東海大学医学部附属大磯病院看護部部長、前医療安全対策室) |
| | 丸山 節子 | (済生会奈良病院医療安全管理室) |

(ポスター会場) 2019年2月10日(日) 午前

東京大学山上会館2階ロビー

【PP3 : 医薬品・機器】

掲示 9:00-16:00

討論 14:00-14:50

座長: 鷺山 厚司 (福岡大学病院・医療安全管理部)

PP3-1 若手薬剤師に安全文化を根付かせるための取り組み

寺山 恵子 NH0 岩国医療センター 薬剤部

PP3-2 保険薬局における医療安全の取り組み ～安全マネジメントサイクル構築にむけて～

川路明人 1)、吉田昌樹 2)、森 達雄 3)、棚瀬裕子 4)、樋田陽子 5)、土屋辰司 1)、住田崇 1)、石橋明 6)

1) (一社) ファルマネットぎふ本部、2) しいのみセンター薬局、3) しいのみ薬局、4) 南しいのみ薬局、5) 華陽しいのみ薬局、6) 安全マネジメント研究所

PP3-3 薬学部新入生の患者安全意識の検討

長谷主帆 帝京大学薬学部薬学科

PP3-4 個人属性が与えるピクトグラムへの影響の検討

福田八寿絵 1 斎藤百枝美 2 1. 帝京大学医療共通教育研究センター 2 帝京大学薬学部

PP3-5 安全な投薬を行うための業務工程図作成の取り組み

萩原美代子 公立福生病院

PP3-6 新生児病棟における内服インシデント報告件数の低減

古谷 学 愛媛県立中央病院・新生児科 (NICU・GCU)

PP3-7 注射用デクスラゾキサンの投与の検討と院内体制

宇野美雪 1, 2、寺崎和代 1、井上歩美 1、北浜紀美子 1、後藤伸之 2、秋野博信 1

1 福井大学医学部附属病院医療安全管理部、2 福井大学医学部附属病院薬剤部

PP3-8 インシデント報告数を増やすための環境づくり

神宮司 愛 福岡輝栄会病院・薬剤科

PP3-9 人工呼吸器の安全機能に関する情報共有

竹島 奈津子 札幌徳洲会病院・医療安全管理室

PP3-10 A 病院小児集中治療病棟における生体情報モニター無駄鳴り低減への多職種での取り組み

古堅 真紀 熊本赤十字病院 PICU

(ポスター会場) 2019年2月10日(日) 午後
東京大学山上会館2階ロビー

【PP4 : 安全管理】

掲示 9:00-16:00

討論 14:50-15:45

座長: 鷺山 厚司 (福岡大学病院・・医療安全管理部)

PP4-1 広島県のへき地病院で地域地域連携する医療安全対策

永澤 昌 市立三次中央病院

PP4-2 2つのCRPS訴訟の被告となって判明した裁判の実態

松井英司 医療法人 松井整形外科医院

PP4-3 画像診断レポート読み漏れ精査漏れ防止策

土田 敬 1), 宮下 芳幸 2), 塗茂 裕一 3), 清水 浩美 4), 三井 毅 1)

1) 福井県済生会病院 医療安全対策委員会, 2) 同 放射線技術部, 3) 同 医療情報課,

4) 同 医療安全対策室

PP4-4 A病院の医療チーム医療における安全意識を高めるための「グッドひやり」報告の導入

菅井亜由美 JCHO 滋賀病院 看護部

PP4-5 刑事医療過誤における看護職の法的責任 ―刑事医療判例からの考察―

荻田明子 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 看護学科

PP4-6 画像診断報告書作成におけるトランスクリバターの有用性

小貫ゆり 聖マリアンナ医科大学病院 画像センター (タイプ室)

PP4-7 ハリーコール分析と当院独自のラピッドレスポンスシステムの構築

田中久美、石山亜耶*、与古田幸代、安田光宏*、岡田 靖

国立病院機構九州医療センター 医療安全管理部、救命救急センターBLS 委員会*

PP4-8 多職種連携による医療安全対策導入を振り返る ～MRI 検査事故再発防止への取り組み～

岡本大 日本医科大学武蔵小杉病院・看護部

PP4-9 手術室医師リスクマネージャーのインシデント低減への試み

飯沼宏和 竹中幸男 南谷美朱 杉山保幸

岐阜市民病院 医療安全推進部

PP4-10 当院の人間ドック婦人科診察におけるインシデント

高本真弥 1) 2), 廣井透雄 2), 大石元 1)

国立国際医療研究センター・1) 産婦人科 2) 医療安全管理部門

PP4-11 アメリカ理学療法士協会の「深部静脈血栓症に対する離床アルゴリズム」を用いたリハビリテーションの実践

松本 隆一

独立行政法人国立病院機構信州上田医療センターリハビリテーション科・医療安全管理室

車椅子の搬送中に このような経験ありませんか？

片手での搬送だから不安定だわ...

段差やスロープがあるけど大丈夫？

医療従事者が点滴台を持って搬送の場合

もうすぐスロープだけど大丈夫かな

点滴台が車椅子に当たりそう...

点滴台が倒れたりしないかな

患者さまが点滴台を持って搬送の場合

カチャッとeveryで 車椅子搬送の問題を解決!!

カチャッとeveryとは？
ご施設でお使いの点滴台と車椅子を
ワンタッチで固定します!!

だから
両手でしっかり車椅子を持てる
ので安心して患者さまを
搬送して頂くことができます。

お気軽にご相談ください

POINT
車椅子と点滴台を
しっかり固定!

カチャッとeveryのデモンストレーションを承っております
アタッチメント付き車椅子を持参の上、商品説明とデモンストレーションをさせていただきます。
まずはお気軽にお問い合わせください。※お買いの品別会によってはお時間まいいただく場合がございます。

動画でもご覧中!!

カチャッとevery 動画



地域中核企業創出支援事業 ハンズオン事業
管理費例：公益財団法人 三重県産業支援センター/支援企業：三重金属工業株式会社

お問い合わせ

三重金属工業株式会社 メディカル事業部
TEL 059-228-0102 FAX 059-224-8567
<http://www.mimex.com>

IARMM THE 8TH WORLD CONGRESS OF CLINICAL SAFETY

--- PATIENT SAFETY PROMOTION BY MULTI-OCCUPATION ---

DATE: 2-4 OCTOBER 2019

GRAND MAJESTIC PLAZA HOTEL,
PRAGUE, CZECH REPUBLIC

BY
INTERNATIONAL ASSOCIATION OF RISK MANAGEMENT IN
MEDICINE (IARMM)



"CALL FOR PAPERS":

FROM 1 MARCH 2019 TO 31 MAY 2019

CONGRESS REGISTRATION:

(PRESENTER WHOSE ABSTRACT IS ACCEPTED)

FROM 1 MAY 2019 TO 30 JUNE 2019

(AUDIENCE WITHOUT CZECH VISA)

FROM 1 MAY 2019 TO 10 SEPTEMBER 2019

(AUDIENCE REQUESTED CZECH VISA)

FROM 1 MAY 2019 TO 15 JULY 2019

Contact details:

8wccs@iarmm.org

<http://www.iarmm.org/8WCCS/>

一般社団法人 日本医療安全学会のホームページ

<http://www.jpscs.org/>

第5回日本医療安全学会学術総会事務局

一般社団法人 日本医療安全学会本部内

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

TEL/FAX: 03-3817-6770

Email: 5amt@jpscs.org